



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>		<p>6 P20「続けてみよう」を読み、「言葉の手帳」を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>印象に残った言葉や気になった言葉を、日付や感想とともに書き留めていくことを確認する。</li> <li>最初の言葉を書き込み、その言葉との出会いや意味、使い方などを書いて、友達と交流させる。</li> </ul> <p>◇線や矢印を使って類義語や対義語を書かせたり、用例を書かせたりしてもよい。</p> <p>7 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音読や発表をするとき、発表を聞くときにはどんなことに気をつけるとよいか、気づいたことをまとめる。</li> <li>友達とノートの交流をし、工夫できていることと改善点について話し合う。</li> </ul>	<p>→これまでに読んだ本などを基に、印象に残った言葉を書き留めている。</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→日常生活やこれまでに読んだ本の中から題材を決め、情報を整理して「言葉の手帳」に書き込んでいる。</p> <p>【主】進んで日常生活の中から題材を決め、これまでの学習を生かして「言葉の手帳」を作ろうとしている。</p>
<b>1 学びをひらく</b>				
4月	<p>はじまりの風 4時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> </ul> <p>2 作品の全体像と場面ごとの心情を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物は誰かを確かめる。(課題1-①)</li> <li>物語全体をいくつかの場面に分ける。(課題1-①)</li> <li>場面ごとに、登場人物の心情がわかる表現を挙げる。(課題1-②)</li> <li>→P29「カギ」「心情の変化をとらえる」</li> <li>→P276「資」『「学びのカギ」一覽』(文学)</li> <li>→二次元コード「学びの地図」</li> </ul> <p>◇小学校で学習してきた物語の読み方を思い出させながら進める。</p> <p>3 3 心情の変化を整理する。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題1で挙げた表現を基に、場面の展開に沿ってレンの心情の変化を捉え、図などを使って整理する。</li> </ul> <p>4 4 整理した内容を基に話し合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>整理した図をグループで見せ合いながら、自分が着目した表現や、そこから読み取れるレンの心情の変化について話し合う。</li> <li>話し合いを通して新しく気づいた点があれば、図に書き足す。</li> <li>文章の中から、「風」に関する言葉を抜き出したり、「風」を表す言葉を自分で集めたりする。</li> <li>→P29「言の葉」</li> </ul> <p>◇作者のインタビュー動画を見せ、感じたことを発表させてもよい。</p> <li>→二次元コード「作者インタビュー」</li> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>場面ごとの心情の変化を図を用いて整理することで、どんなことがわかったか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>どんな表現を手がかりに心情の変化を捉えたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>好きな小説や映画などの登場人物について、心情の変化を図で表す。</li> </ul>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→図などを使って、心情の変化を整理している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)</p> <p>→場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。</p> <p>【主】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。</p>
5月	季節のしおり 春	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>春の植物や動物にまつわる言葉や、春の情景を詠</li> </ul>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</li> <li>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</li> </ul>		<p>んだ俳句や和歌、詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p> <p>◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。</p>	<p>増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
5月	<p>【聞く】</p> <p>情報を聞き取り、要点を伝える</p> <p>1時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 情報を的確に聞き取り、要点を伝える必要がある場面を挙げる。</p> <p>◇自分の体験などを基に、何が必要な情報かを判断しながら聞き取り、情報を整理して伝えることの大切さを理解させる。</p> <p>2 二次元コードの音声を聞き、必要な情報をメモに取る。(やってみよう①)</p> <p>→二次元コード「田村さんと部長の会話」</p> <p>3 ①のメモを基に、相手に伝える内容を整理する。(やってみよう②)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝える必要がある情報は、線を引いたり、丸で囲んだりして整理する。</li> </ul> <p>4 情報を的確に聞き取るためのポイントを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「情報を的確に聞き取るために」で、情報を聞き取るときと、聞き取った情報を伝えるときのポイントを確認する。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を的確に聞き取ったり、聞き取った情報を伝えたりするときのポイントについて理解することができたか、確かめる。</li> </ul>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→5W1Hに注意して、キーワードとなる言葉を書き留め、番号や記号を用いて整理している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア)</p> <p>→日常の話題について、聞き取った情報を整理し、伝える内容を考えている。</p> <p>【主】聞き取った情報を進んで整理し、学習課題に沿って、要点を伝えようとしている。</p>
5月	<p>言葉 1 音声の仕組みや働き</p> <p>1時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の課題に取り組み、音声の仕組みや働きについて関心をもつ。</p> <p>→P16「声を届ける」</p> <p>2 母音と子音について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「母音と子音」を読み、日本語の音声の仕組みや、はっきりと発音する方法を確認する。</li> <li>・「日本語と英語のちがいを」を読み、言語によって発音の仕組みに違いがあることを理解する。</li> </ul> <p>3 音の高さ・強さについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクセントやイントネーションによって、言葉の意味や調子が変わることや、伝えたいことを強調する発音のしかたを理解する。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことを音声で正確に届けるためには、どんな工夫ができるかを確認する。</li> </ul>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→日本語の音声が母音と子音で構成されることや、アクセント・イントネーションによって意味や調子が変わることなどを理解している。</p> <p>【主】声の出し方による伝わり方の違いを、試行錯誤しながら確認し、それらを生かして音声の働きや仕組みについて理解を深めようとしている。</p>
5月	<p>話の構成を工夫しよう</p> <p>一枚の写真をもとにスピーチをする</p> <p>4時間</p> <p>◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎自分の考えや根拠が明確にな</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 スピーチの材料を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなの知らない私の一面」について、思いついたことを書き出す。</li> <li>・何を伝えるかを決め、写真を用意する。</li> </ul> <p>→二次元コード「表現テーマ例集」</p> <p>2 話の構成を考え、練習する。</p>	<p>【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア)</p> <p>→声の大きさ、話す速さ、間の取り方などに注意しながらスピーチをしている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、自分の考えや根拠が明確になるように、話の中</li> </ul>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>るように、話の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考慮することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★紹介など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	4	<p>・聞き手にわかりやすく伝えるために、話す順序や表現のしかたを工夫する。 ◇1分を目安に内容を整理させる。 ◇構成案を基に、スピーチメモを作らせる。</p> <p>・友達どうして聞き合ったり、録画を見たりして、互いの改善点を見つける。 →P35 <b>カギ</b> 「わかりやすい話の構成を考える」 →P280 <b>窓</b> 『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く) → <b>二次元コード</b> 「学びの地図」 →P341 <b>窓</b> 「ICT活用のヒント」 →P37 <b>言葉</b></p> <p>◇伝えたいことを明確にし、構成や表現を工夫させる。また、声の大きさや速さ、間の取り方などに注意させる。</p> <p>3 スピーチの会を開く。</p> <p>・順番を決め、スピーチの会を開く。</p> <p>・聞き手の反応を踏まえ、声の大きさや速さ、間の取り方などを意識して話す。 → <b>二次元コード</b> 「スピーチをする」 →P16 「声を届ける」</p> <p>◇伝えたいことを届けようとする姿勢を大切にさせたい。 →P37 「達人からのひと言」</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・スピーチについての感想を交流する。</p> <p>・内容や話し方について、よいと思ったことを伝え合う。</p> <p>・声の大きさや間の取り方などを、どのように工夫したか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・自分の伝えたいことが、聞き手にはっきりとわかりやすく伝わるように、スピーチの構成や表現で工夫した点は何か、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・今回学んだことの中で、次にスピーチをするときに生かしたいことを挙げる。 ◇P34 「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などに注意して、話の構成を考えている。(A(1)イ)</p> <p>→聞き手を想定し、伝えたいことが明確になるように、構成を考え、話す順番を工夫している。</p> <p>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)</p> <p>→聞き手の反応を見ながら、伝えたいことがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話している。</p> <p>【主】話の構成を粘り強く考え、学習の見通しをもってスピーチをしようとしている。</p>
5月	<p>漢字 1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう 1 1 時間</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 ・漢字は、左右・上下・外側と内側などの二つの部分を組み立てたものが多いことを理解する。</p> <p>2 偏旁冠脚など漢字を組み立てている部分について理解する。</p> <p>3 部首について理解する。</p> <p>4 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 → <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」</p> <p>5 P40 「漢字に親しもう 1」の問題に取り組む。 → <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」 →P19 「言葉を調べる (漢和辞典)」 →P260 「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308 <b>窓</b> 「一年生で学習した漢字」 →P321 <b>窓</b> 「一年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257 「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→漢字の組み立てと部首について理解し、漢和辞典を使って調べている。</p> <p>【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>2 新しい視点で</b>				
5月	<b>ダイコンは大きな根？</b> <b>2時間</b> ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 文章の中心となる部分を捉える。(課題1) ・筆者が「問い」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つけ、それぞれ短い言葉でまとめる。 2 3 段落の役割について考える。(課題2) ・この文章を構成する10の段落が、文章全体の中で、それぞれどんな役割を果たしているかを考える。 →P45カギ「段落の役割に着目する」 →P278窓「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」 4 筆者の説明のしかたについて話し合う。(課題3) ・筆者の説明のしかたに注目して、この文章のわかりやすさの秘密を話し合う。 ◇題名や説明のしかた(問いと答え、比較、図など)に着目させるとよい。 5 学習を振り返る。 ・筆者は、何と何を、何のために比較しているかまとめる。 ・段落が果たす役割には、どのようなものがあったか挙げる。 ・わかりやすく説明する工夫のうち、自分が文章を書くときに使ってみたいものを一つ挙げる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →「問い」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【主】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、今までの学習を生かして筆者の説明の工夫を伝え合おうとしている。
5月	<b>ちょっと立ち止まって</b> <b>3時間</b> ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・P50の吹き出しを参考に、共感・納得したところや発見・気づき、疑問点等を挙げる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 ・文章全体を、序論・本論・結論に分け、さらに、本論を三つのまとまりに分ける。(課題1-①) ・結論に書かれている内容に着目して、文章の要旨をまとめる。(課題1-②) →P51カギ「文章の構成に着目する」 →P278窓「『学びのカギ』一覧」(説明文) →二次元コード「学びの地図」	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ →筆者の主張と事例との関係を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア) →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 【主】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。
		2	3 文章の構成に着目し、序論・本論・結論の役割を考える。 ・文章と図との対応に注意し、本論の図がそれぞれ何を述べるために示されているかをひとりでまとめる。(課題2-①) ・結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。(課題2-②)	
		3	4 考えたことを伝え合う。(課題3) ・筆者の主張を踏まえ、生活の中で、ものの見方や考え方が広がったと思われる体験や事例を発表する。 ◇最初にもった疑問は解決したか、また学習の前	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>には気づかなかつた、新たな発見や疑問があれば、友達どうして報告させるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文から「見る」ことに関する言葉や慣用句を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。</li> </ul> <p>→P51 <b>言葉</b></p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張と事例の関係を、どのような方法で整理したか挙げる。</li> <li>・文章の要旨を捉えるときには、どんな手順で進めるとよいか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・筆者はなぜ、「他の見方を試して」みることを勧めているのか、「ちょっと立ち止まって」という言葉を使って、一文にまとめる。</li> </ul>	
6月	<p><b>情報整理のレッスン</b> <b>比較・分類</b> 1時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 学習の目的を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P52上段の導入の文章を読み、目的に合わせて情報を整理することの必要性を理解する。</li> </ul> <p>2 情報を比較・分類する方法を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・①比較する(表)、②分類する(ラベリング)、③分類して比較する(ベン図)、④順序や流れを整理する(フローチャート)を確認し、情報整理の目的と、それに適した方法を理解する。</li> </ul> <p>◇図や表で整理された情報を見て気づいたことを、「比較に用いる言葉」や「順序を表す言葉」を使って発表させるとよい。</p> <p>3 問題1～2に取り組む。</p> <p>◇情報を整理した後、グループで考えを交流させ、目的が達成できれば、整理のしかたや観点の立て方は多様であつてよいことに気づかせたい。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報はどのように整理するとわかりやすくなるか、目的ごとにまとめる。</li> </ul> <p>→P9「思考の地図」</p> <p>→<b>二次元コード</b>「漢字の練習」</p>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ</p> <p>→情報の整理のしかたを理解し、情報を比較したり、分類したりしている。</p> <p>【主】情報の整理のしかたについて積極的に理解を深め、学習したことを生かして練習問題に取り組もうとしている。</p>
6月	<p><b>情報を整理して説明しよう</b> <b>発見したことをわかりやすく書く</b> 4時間</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思い</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組ませるとよい。</p> <p>→<b>二次元コード</b>「書くことのミニレッスン」</p> <p>1 情報を集め、整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・取り上げる題材(道具)を選ぶ。</li> </ul> <p>→<b>二次元コード</b>「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道具を観察したり、試しに使ったりして、気づいたことを書き出し、整理する。</li> <li>・説明に必要な情報を絞り込む。</li> </ul> <p>→P55 <b>カギ</b>「情報を集めて取捨選択する」</p> <p>→P280 <b>資</b>「『学びのカギ』一覧」(書く)</p> <p>→<b>二次元コード</b>「学びの地図」</p> <p>→P9「思考の地図」</p> <p>2 構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ情報をどのような順序で提示するとわかりやすいかを考える。</li> </ul> <p>3 文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P57の文章の例を参考に、300～400字程度で文章</li> </ul>	<p>【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ</p> <p>→集めた情報を、観点に沿って比較したり、共通点を見つけて分類したりして整理している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>→目的や相手を意識して、情報を集めて整理し、説明に必要な情報を取捨選択している。</li> <li>・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</li> <li>→わかりやすく説明するために、まとめ方や順序を工夫している。</li> </ul> <p>【主】集めた材料を粘り強く整理し、学習の</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	や考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)		にまとめ、わかりやすい文章になるように推敲する。 ◇タブレットなどを使って文章を作成すると、推敲しやすい。 →P56 <b>言葉</b> →P56「達人からのひと言」 4 交流する。 ・友達と読み合い、内容や説明のしかたについて、わかりやすいと思った点を伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・集めた情報を、どんな方法で整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・どのような目的で、どのような工夫をして情報を取捨選択したか、自分の言葉でまとめる。 ・わかりやすく説明する工夫の中で、次に生かしたいことを挙げる。 ◇P54「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	見通しをもってわかりやすく説明する文章を書こうとしている。
6月	<b>言葉2</b> <b>指示する語句と接続する語句</b> 1時間 ◎指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の課題に取り組み、指示する語句や接続する語句について関心をもつ。 2 指示する語句について理解する。 ・P58の表を基に、指示する語句(「こそあど言葉」)の種類を把握する。 ・例を基に、前後の文をつなぐ働きを理解する。 3 接続する語句について理解する。 ・P59-60の表を基に、接続する語句の働きによる分類について理解する。 ・例を基に、接続する語句には書き手や話し手の気持ちが反映されることを知る。 4 学習したことを日常につなぐ。 ・P60「読むことに生かす」を読み、接続する語句が、段落の関係をつかむ手がかりになることを理解する。 ◇既習の「ダイコンは大きな根？」や「ちょっと立ち止まって」の文を例に理解させるとよい。 → <b>二次元コード</b> 「漢字の練習」	<b>【知・技】</b> 指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めている。(1)エ) →例を基に、指示する語句と接続する語句の種類や働き、使われ方などについて理解している。 <b>【主】</b> 今までの学習を生かして、積極的に指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めようとしている。
<b>3 言葉に立ち止まる</b>				
6月	<b>空の詩 三編</b> <b>【書く】詩の創作教室</b> 3時間(読②書①) ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎根拠を明確にしなが、自分	1-2	◇次の教材「言葉3 さまざまな表現技法」と併せて扱うと効果的である。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 三つの詩を音読する。 ・新出漢字を調べる。 → <b>二次元コード</b> 「漢字の練習」 2 詩について、感じたことを交流する。 ・「よさやおもしろさを感じたところ」や、「どう思うところだろうと思ったところ」のような観点で、感じたことや考えたことを交流する。(課題1-①、②) ◇いずれも空の詩であることを確認させる。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 ・それぞれの詩について、提示された観点から考えをもつ。(課題2-①) ・三つの詩の中で、最も印象に残った表現とその効果について、話し合う。(課題2-②)	<b>【知・技】</b> ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ) →表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。 <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 (思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	3	<p>◇友達の見解との共通点や相違点を確認させる。 ◇季節や時間(朝・昼・夜)を想像させてもよい。</p> <p>4 最も印象に残った詩について発表する。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選んだ詩のいちばんのよさ(おもしろさ)や印象に残った表現などの観点に沿ってメモを作り、発表する。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩のどの言葉や表現に着目して読み味わったか挙げる。</li> <li>・詩の情景を想像するうえで、特に効果的だと感じたのはどの表現かをまとめる。</li> <li>・詩の創作に生かしたいと思ったことを挙げる。</li> </ul> <p>6 空の詩を作り、「空の詩 三編」に加える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな空を取り上げるか考える。</li> <li>・思いや考えを書き出し、空についてのイメージを広げる。</li> <li>・「空の詩 三編」を参考に、表現を工夫して詩を書く。 →P268「語彙ブック」(情景を表す言葉) →P68「言葉3 さまざまな表現技法」</li> <li>・読み合って感想を伝え合う。</li> </ul> <p>◇P67下段「他にもある! こんな楽しみ方」を参考に、クラスの実態に応じた活動を行うとよい。</p>	<p>にして考えている。(C(1)エ)</p> <p>→詩に描かれている情景を想像し、具体的な叙述を取り上げて表現の効果を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。</li> <li>・「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> <li>→読み手の助言から、創作した詩のよい点や改善点を理解している。</li> </ul> <p>【主】詩の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>
6月	<p><b>言葉3 さまざまな表現技法</b> 1時間</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。</p> <p>2 P68「比喩(たとえ)」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を基に、比喩の特徴を理解する。</li> </ul> <p>◇P70「生活に生かす」を読み、日常生活の中でも、比喩を使うことで物事を効果的に伝えることができることを伝えるとよい。</p> <p>→P71「比喩で広がる言葉の世界」</p> <p>3 P69「反復」「倒置」、P70「体言止め」「省略」「対句」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例文を基にそれぞれの技法の特徴を理解する。</li> </ul> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、具体的な言葉を挙げて指摘している。</p> <p>【主】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法について、学習課題に沿って、積極的に理解を深めようとしている。</p>
6月	<p><b>比喩で広がる言葉の世界</b> 2時間</p> <p>◎比喩などの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★解説の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章をまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1	<p>【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が、「比喩」をどのように定義しているかを確かめる。(課題1-①)</li> <li>・筆者が指摘している、比喩の二つの効果を簡潔にまとめる。(課題1-②)</li> <li>・文章の中心となる部分を見つけ、要旨をまとめる。(課題1-③)</li> </ul>	<p>【知・技】比喩などの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</p> <p>→文中で使われている比喩の文脈上の意味を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)</p> <p>→各段落の役割を理解し、文章の中心となる部分を見つけ、要旨を捉えている。</p> <p>【主】進んで比喩について理解し、学習課題に沿って言葉について考えを深めようとしている。</p>
		2	<p>3 比喩について理解を深める。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P74の図を言葉で説明し、比喩を使うかどうかでどんな違いが出るかを考える。</li> </ul> <p>4 生活への生かし方を考え、伝え合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りにある「比喩」や、「比喩の発想」が生かされた言葉を見つけて発表する。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「比喩」について初めて知ったことや、改めて気</li> </ul>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<ul style="list-style-type: none"> <li>づいたことを挙げる。</li> <li>・この文章は、何の、どんなことについて説明した文章だったか、簡潔にまとめる。</li> <li>・友達が発表した「比喻」や「比喻の発想」が生かされた言葉の中から気に入ったものを一つ選び、どんなときに使えるか考える。</li> </ul>	
6月	<b>文法への扉 1</b> <b>言葉のまとまりを考えよう</b> <b>文法 1 言葉の単位</b> <b>1 時間</b> ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P75の導入や教材文を読み、言葉のまとまりについて考える。 ・例文を音読し、間を取った箇所を確認する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P242「文法 1 言葉の単位」を読む。 →二次元コード「練習問題」 ・「文法とは」を読み、文法の定義を理解する。 ・「言葉の単位」を読み、「文章・談話」「段落」「文」「文節」「単語」の違いとそれぞれの特徴を理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ・P243「読むことに生かす」を読み、段落に着目して読むことで、説明的な文章の内容や構成が捉えやすくなることを理解する。	<b>【知・技】</b> 単語の類別について理解している。(1)エ) →文法の必要性を知り、言葉の単位とその働きについて理解している。 <b>【主】</b> 今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる言葉の単位について理解しようとしている。
7月	<b>語彙を豊かに</b> <b>心情を表す言葉</b> <b>1 時間</b> ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 学習の目的を理解する。 ・リード文を読み、心情を的確に表現するためには、語句の量を増やす必要があることを理解する。 2 印象に残った出来事について、そのときの気持ちをひとことで表す。 3 気持ちを表す言葉を集める。 ・P76の図を参考に、似た意味の言葉を集める。 ◇国語辞典や類語辞典を活用させるとよい。 →P270「語彙ブック」(心情・行為を表す言葉) →P19「言葉を調べる」 →P9「思考の地図」 4 気持ちにぴったりの言葉を選ぶ。 ・P77の図などを参考に、集めた言葉の中から気持ちを的確に表現できる言葉を選び、文を書き換える。 →二次元コード「漢字の練習」 5 学習を振り返る。 ・言葉を集めて比べたことを通して、気づいたことを話し合う。	<b>【知・技】</b> 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →言葉を集め、似た意味の言葉の語感の違いに注意しながら、伝えたいことに合う的確な言葉を探している。 <b>【主】</b> 今までの学習を生かして、積極的に事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使おうとしている。
<b>情報×SDGs</b>				
7月	<b>情報収集の達人になろう</b> <b>コラム 著作権について知ろう</b> <b>3 時間 (読②書①)</b> ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 調べるテーマを決める。 ・SDGsの17の目標を手がかりに、疑問に思ったことや、詳しく知りたいと感じた問題を書き出す。 →二次元コード「SDGsについて考え、行動しよう」 →P282「発想を広げる」 →二次元コード「漢字の練習」 2 図書館やウェブサイトで情報を集める。 ・P80「図書館で情報を集める」「ウェブサイトで情報を集める」を読み、それぞれの場合での情報の集め方を理解する。	<b>【知・技】</b> ・原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →考えを述べる際に、その考えを支える理由や事例が必要なことを理解している。 ・比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →本やインターネットで調べた情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が決めたテーマについて、どのように調べるのがよいかを考え、実際に情報を集める。</li> </ul> <p>3 情報を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から正しく情報を読み取る方法と、必要な情報を記録する方法を理解する。</li> <li>P81の資料と記録カードの例を参考に、自分が図書館やインターネットで集めた資料から、必要な情報を探してカードに記録する。</li> </ul> <p>4 行動宣言をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取った情報を適切に引用しながら、持続可能な社会の実現に向けて、自分がどんな行動をするかをまとめる。</li> <li>出典の示し方に注意して「参考文献」を書く。</li> </ul> <p>◇資料を引用する際には、P82の文例と「引用のルール」を参考にさせるとよい。</p> <p>5 著作権について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>著作権の定義や、著作者の許可が必要ない場合について確認する。</li> <li>P83「やってみよう」に取り組み、著作物を使用するときの留意点を確かめる。</li> </ul> <p>6 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報の調べ方や読み取り方について、今回学んだことを挙げる。</li> <li>今後、どんな場面で引用や出典、著作権について学んだことを生かせそうか、グループで話し合う。</li> </ul>	<p>し方を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>→調べたいテーマについて、本やインターネットを活用して情報を集め、整理し、伝えたいことを明らかにして書いている。</li> <li>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ)</li> <li>→読み取った情報を基に、自分の考えを書いている。</li> </ul> <p>【主】引用のしかたや出典の示し方について積極的に理解を深め、今までの学習を生かして収集した情報を基に考えたことを書こうとしている。</p>
いつも本はそばに				
7月	<p><b>読書を楽しむ</b> 1時間</p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を通読し、さまざまな読書活動を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本を読んだ後、記録をしたり、友達に紹介したりする学習活動について理解する。</li> </ul> <p>2 「ポップ作り」、「読書会」、「読書記録」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。</p> <p>→P20「続けてみよう」</p> <p>◇学校や地域の状況に応じて、指導者が活動を決めてもよい。</p> <p>3 活動の内容に沿って、見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポップの場合は、読書記録を基に本を決め、必要な情報を整理して、本の魅力が伝わるように紹介する。</li> <li>読書会の場合は、クラスやグループごとに課題本を決め、各自で読んで感想などをメモしておく。その後、話し合いたいテーマなどを決めて、読書会を開く。</li> <li>読書記録の場合は、記録のしかたを確認する。</li> </ul> <p>4 ポップ、読書会のメモや記録、読書記録を提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>それぞれの活動で作成したポップやメモ、記録した読書ノートなどを夏休み明けに提出する。</li> </ul> <p>◇完成物は、教室や学校図書館に展示するとよい。</p> <p>◇次の教材「本の中の中学生」と併せて指導することも考えられる。</p> <p>→P86「本の中の中学生」</p> <p>→P196「研究の現場ようこそ」</p> <p>→P90、202「本の世界を広げよう」</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ)</p> <p>→さまざまな読書の楽しみ方について理解し、読書が知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>【主】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを進んで理解し、今までの学習を生かして本の魅力や感想を伝え合おうとしている。</p>
7月	<p><b>本の中の中学生</b> あと少し、もう少し</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>【知・技】読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つ</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p><b>西の魔女が死んだ</b>  <b>読書案内 本の世界を広げよう</b>  <b>コラム 本との出会い</b>  <b>1時間</b></p> <p>◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>		<p>1 「本の中の中学生」の作品を読む。  ・考えていることや悩んでいることが似ている登場人物、友達になれそうな登場人物はいないか、探しながら読む。</p> <p>2 気に入った作品とその理由を友達と共有する。  ◇学校図書館や地域の図書館に行つて続きを読んだり、同じ作者が書いた別の作品や、他の作家が書いた同じテーマの本を読んだりするなど、実際に本を手取るように促すとよい。</p> <p>3 P90「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。  ◇P93「コラム 本との出会い」を参考に、夏休みの課題として、「本の中の中学生」等のテーマを設定して、推薦文を書かせてもよい。書いた推薦文は、展示したり、それを基にスピーチをしたりして、友達と交流させることもできる。  →P92「私の一冊」  →P93「本との出会い」  →P284<sup>資</sup>「読書感想文の書き方」  →P286<sup>資</sup>「文章の推敲・原稿用紙の使い方」  →P290<sup>資</sup>「幻の魚は生きていた」  →P294<sup>資</sup>「坊っちゃん」  ◇前の教材「読書を楽しむ」と併せて指導することも考えられる。</p>	<p>つことを理解している。(3)オ)  →読書が、知識を得たり、新しいものの見方や考え方を知ったり、自分の考えを広げたりすることに役立っていることを理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ)  →文章を読み、理解したことを基に、自分の考えを形成している。</p> <p>【主】進んで文章を読み、理解したことに基づき、学習課題に沿つて考えたことを伝え合おうとしている。</p>
7月	<p><b>季節のしおり 夏</b></p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・夏の植物や動物にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ詩や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。  ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。  ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)  →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>4 心の動き</b>				
9月	<b>大人になれなかった弟たちに……</b> <b>4時間</b> ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技(3)オ) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 ・「母」が食べ物をあまり食べなかったり、「僕」がヒロユキのミルクを盗み飲みしてしまった理由を確かめる。(課題1-①) ・提示された部分から「僕」や「母」の心情を考える。(課題1-②) →P105カギ「描写に着目する」 →P276資『学びのカギ』一覧(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇提示された部分以外にも、登場人物の心情がわかる描写に線を引かせ、心情を考えさせる。 3 3 題名のもつ意味について考える。(課題2) ・出典の絵本や、戦争に関する本や資料を併せて読み、作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。 →P103広がる読書 4 表記に込められた、作者の意図を考える。 ・「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」が片仮名表記であることの意味や効果について考える。 →P105言の葉 →二次元コード「作者インタビュー」 4 5 思いを伝える朗読会をする。(課題3) ・場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように、心に残った場面を朗読し、感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・関連する本や資料を読むことは、作品の理解にどう役立ったかまとめる。 ・登場人物のどんな心情が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・話し合いや朗読会の中で、自分の考えを広げるのに役立った友達の意見を挙げる。	<b>【知・技】</b> 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。(3)オ) →戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解するうえで、読書が役立つことを理解している。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ) →描写に着目して、登場人物の行動の理由や心情の変化を捉えている。 <b>【主】</b> 登場人物の心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習したことを生かして朗読しようとしている。	
9月	<b>星の花が降るころに</b> <b>5時間</b> ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →二次元コード「銀木犀の写真」 2 「私」を中心に作品の内容を押さえる。 ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品を幾つかの場面に分ける。(課題1-①) ◇P22「はじまりの風」での場面分けの学習を振り返らせるとよい。 ・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。(課題1-②) 3-4 3 場面や描写を結び付けて内容を解釈する。(課題2) ・同じ物や場所が描かれている場面や描写を、図などを使って整理・比較し、どんなことが読み取れるか伝え合う。 →P115カギ「結び付けて解釈する」 →P276資『学びのカギ』一覧(文学)	<b>【知・技】</b> 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ) →場面や描写の結び付きを、図などを用いて整理・比較している。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈している。(C(1)ウ) →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 <b>【主】</b> 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
		5	<p>→<b>二次元コード</b>「学びの地図」</p> <p>・「雪が降るように」のような比喻表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。</p> <p>→P115<b>言の葉</b></p> <p>→P68「言葉3 ささまざまな表現技法」</p> <p>4 印象に残った場面や描写を語り合う。(課題3)</p> <p>・解釈を基に、印象に残った箇所とその理由をグループで述べ合う。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・場面や描写の結び付きを図を用いて整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて、簡潔に書く。</p>	
9月	<p><b>項目を立てて書こう</b></p> <p><b>案内文を書く</b></p> <p><b>3時間</b></p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。</p> <p>→<b>二次元コード</b>「書くことのミニレッスン」</p> <p>1 情報を整理し、構成を考える。</p> <p>・案内する事柄を決め、相手の立場に立って、伝える必要がある情報を考える。</p> <p>・身の回りの案内文なども参考に、項目を立てて情報を整理し、構成を考える。</p> <p>→P116<b>カギ</b>「必要な情報を明確に伝える」</p> <p>→P280<b>資</b>「『学びのカギ』一覧」(書く)</p> <p>→<b>二次元コード</b>「学びの地図」</p> <p>→P288<b>資</b>「手紙の書き方」</p> <p>3</p> <p>2 案内文を書く。</p> <p>・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、案内文を書く。</p> <p>◇必要な情報が明確に伝わるように、事柄・目的・相手に合わせて情報を整理し、項目の分類や順序を工夫させる。</p> <p>→P118「読み手の立場に立つ」</p> <p>→P341<b>資</b>「ICT活用のヒント」</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・互いの案内文を読み合い、意見や感想、工夫されていると思った点を伝え合う。</p>	<p><b>【知・技】</b>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)</p> <p>→情報を項目ごとに整理することを理解し、案内文の作成に生かしている。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→伝えたい事柄・相手に応じて、必要な情報が明確に伝わるように、項目ごとに整理している。</p> <p>・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ)</p> <p>→相手が必要とする情報を明確に伝えるために、案内文の構成を考えている。</p> <p><b>【主】</b>必要な情報を積極的に集めて整理し、学習の見通しをもって案内文を書こうとしている。</p>
9月	<p><b>【推敲】読み手の立場に立つ</b></p> <p><b>1時間</b></p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 読み手の立場に立って、案内文を推敲する。</p> <p>・P117「案内文の例(地域の人に)」を参考に、P118の地域の人に出す体育祭の案内文の下書きを下段<b>1</b>・<b>2</b>の指示に沿って書き改める。</p> <p>→<b>二次元コード</b>「書くことのミニレッスン」</p> <p>→P286<b>資</b>「文章の推敲・原稿用紙の使い方」</p> <p>2 書き換えた案内文について、伝えようとする内容が正確に、わかりやすく書き表されているか、友達と話し合う。</p> <p>◇推敲した文章を互いに比較させながら進めるとよい。</p> <p>3 学習を振り返る。</p>	<p><b>【知・技】</b>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→正確でわかりやすい表現に書き改めている。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>→読み手の立場に立って、誤記はないか、表現は適切か、伝える情報が正確にわかりやすく書けているかな</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★行事の案内を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。 (思・判・表B(2)イ)		・案内文の推敲で、どんなことが大切かまとめる。	どを検討している。 【主】粘り強く文章を推敲し、今までの学習を生かして案内文を書き改めようとしている。
9月	<b>言葉4 方言と共通語</b> 1時間 ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技(3)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1	1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて関心をもつ。 2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。 ・語句・表現・文末表現・発音の違いを知る。 →二次元コード「方言による発音の違い」 ・共通語の必要性を知る。 3 P120「消滅危機言語」を読み、日本における消滅危機言語について知る。 ◇自分たちの住んでいる地域の言葉でしか表現できない事柄はないか、家族や地域の人に尋ねさせてもよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】共通語と方言の果たす役割について理解している。(3)ウ →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 【主】今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。
10月	<b>聞き上手になろう</b> 質問で話を引き出す 2時間 ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技(1)ア) ◎必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1 2	【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 聞き方や質問のしかたを学ぶ。 ・P123上段の話を聞く(読んでもよい)。 →二次元コード「質問のしかた」 ・P123の「聞き方の工夫」と「質問の種類」を読み、上段の話への質問を考える。 ◇「絞る質問」から「広げる質問」の順に展開すると、答えやすくなることが多いことに気づかせる。 2 二人一組で対話の練習をする。 ・二人一組になり、話し手と聞き手に分かれる。 ・話し手が最近あったことを話す。(30秒) ・聞き手は、聞き方や質問のしかたを工夫し、質問で話を引き出す。一問一答で終わらないやり取りをみざす。(5分) →P122カギ「質問で話を引き出す」 →P280資『「学びのカギ」一覧』(話す・聞く) →二次元コード「学びの地図」 ・役割を交代して繰り返す。 ◇対話の後で、「相づち」「繰り返し」「引用」「言い換え」、「絞る質問」「広げる質問」など、どういった工夫をしたか、交流させるとよい。 3 学習を振り返る。 ・それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。(1)ア →話す速度や声の大きさ、言葉の調子や間の取り方などに注意しながら話している。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →話し手の話に耳を傾け、質問のしかたを工夫しながら対話をし、話を十分に引き出している。 【主】進んで質問しながら話の内容を捉え、学習したことを生かして話を引き出そうとしている。
10月	<b>漢字2 漢字の音訓</b> 漢字に親しもう2 1時間 ◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別	1	1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。 2 「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。 ・複数の読みがある漢字や熟語について考える。 3 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P308資「一年生で学習した漢字」	【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ →漢字の音・訓について理解し、熟語

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 (知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)		→P321[資]「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 4 P126「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。 →[二次元コード]「漢字一覧表」 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308[資]「一年生で学習した漢字」 →P321[資]「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	を正しく読んだり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
5 筋道を立てて				
10月	「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 5時間 ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。 (思・判・表C(2)ア)	1 2 3-4 5	【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →[二次元コード]「漢字の練習」 ◇P131の二次元コードから、シジュウカラの鳴き声を聞かせ、興味づけを図るとよい。 →[二次元コード]「シジュウカラの鳴き声」 2 文章の構成と内容を捉える。 ・提示された内容がどの段落に述べられているか、考えながら読む。(課題1-①) ・筆者が、どのような事実を基に仮説を立てたかを簡潔にまとめる。(課題1-②) ・「仮説・仮定・予想」「検証・証明・裏づけ」の言葉の意味や使い方の違いを考える。 →P137[言の葉] 3 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考える。 ・仮説の検証1・2について、提示された観点で読み取り、表にまとめる。(課題2-①) ・なぜ「仮説の検証2」を行う必要があったのかを考える。(課題2-②) ◇P133の実験の様子について、動画を見せるとよい。 →[二次元コード]「実験の様子」 ◇仮説1の検証結果から、さらに疑問が生まれ、新しい仮説2が生まれ、という展開になっていることに気づかせる。 ◇筆者が「事実」をどう「意見」へと展開しているのか、形式段落の冒頭や文末表現に着目させ、読み取らせるとよい。 ・この文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にしてまとめる。(課題2-③) →P137[カギ]「構成や展開の効果を考える」 →P278[資]「『学びのカギ』一覧(説明文)」 →[二次元コード]「学びの地図」 →P138「思考のレッスン1 意見と根拠」 4 文章を読んで、考えたことを話し合う。(課題3) ・筆者の検証方法や結論には説得力があるかどうか、話し合う。 5 学習を振り返る。	【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →文章の構成や展開の効果について、根拠となる段落や部分を挙げて考えを書いている。 【主】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<ul style="list-style-type: none"> <li>この文章で示された事実は、筆者の意見とどのような関係にあるか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>この文章の構成や展開には、どんな効果があったか、「〇〇を根拠とすることで」という言葉を使って述べる。</li> <li>仮説を検証する形で自分の意見を述べることの効果を挙げる。</li> </ul>	
10月	<b>思考のレッスン1</b> <b>意見と根拠</b> <b>1時間</b> ◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P138上段の文章を読み、意見の根拠を明確に示すことの大切さを理解する。 2 適切な根拠について考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>P138中段①②③について、適切な根拠が示されていると思うか考える。</li> <li>適切な根拠について話し合う。</li> <li>問題1に取り組み、適切な根拠が示されているか、またなぜそう考えたかを答える。</li> </ul> 3 意見と根拠の結び付きを考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>P139中段の二つの意見について、根拠と結び付ける理由づけを確認する。</li> <li>問題2に取り組み、理由づけを考える。</li> </ul> 4 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>意見を聞いたり、伝えたりするときのポイントを確認する。</li> </ul> →二次元コード「漢字の練習」	<b>【知・技】</b> 原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →適切な根拠や、意見と根拠の結び付きについて理解している。 <b>【主】</b> 根拠の客観性や理由づけに無理がないかを積極的に検討し、学習課題に沿って、意見と根拠の関係について理解を深めようとしている。
10月	<b>根拠を明確にして書こう</b> <b>資料を引用して報告する</b> <b>5時間</b> ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技(2)イ) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) <b>★</b> 本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表B(2)ア)	1  2-3  4-5	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」 1 課題を決め、調べる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>P144～145の資料などを参考にしながら、課題を決め、情報を集める。</li> </ul> →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) →P144「統計資料の例」 →P282「資」「発想を広げる」 2 構成を考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの体裁や引用のしかた、出典の示し方を確かめる。</li> <li>集めた情報を整理し、レポートの項目ごとに、書く内容と順序を考える。</li> </ul> ◇P52「情報整理のレッスン 比較・分類」を再読し、情報の比較・分類のしかた、順序や流れの整理のしかたを確認させるとよい。 ◇『言葉』をもつ鳥、シジュウカラや「思考のレッスン1 意見と根拠」での学びを生かし、根拠となる事実と、意見のつながり確かめさせるとよい。 →P137「カギ」「構成や展開の効果を考える」 3 レポートを書く。 <ul style="list-style-type: none"> <li>タブレットなどを活用し、引用のしかたに注意して、調べたことや考えたことを文章にまとめる。</li> </ul> →P341「資」「ICT活用のヒント」 <ul style="list-style-type: none"> <li>引用のしかたや、根拠の明確さなどについて助言し合い、推敲する。</li> </ul>	<b>【知・技】</b> 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。(2)イ →情報を整理し、自分の考えを裏づける資料やデータを選び、出典の示し方に気をつけながら引用している。 <b>【思・判・表】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)            →集めた資料やデータを根拠として明確に示しながら、自分の考えを書いている。</li> <li>「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点などを見いだしている。(B(1)オ)            →読み手の助言を基に、引用のしかたや根拠の明確さなどについて、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。</li> </ul> <b>【主】</b> 根拠を明確に示すことを粘り強く考え、学習の見通しをもってレポートを作成しようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>→P78 「情報収集の達人になろう」</p> <p>→P141 <b>カギ</b> 「根拠を明確にして書く」</p> <p>→P280 <b>資</b> 『『学びのカギ』一覧』（書く）</p> <p>→ <b>二次元コード</b> 「学びの地図」</p> <p>→P143 <b>言葉</b></p> <p>◇P144 「統計資料の例」にある資料を使ってまとめさせてもよい。</p> <p>◇P142の文例を参考に、レポートの完成イメージをもたせるとよい。</p> <p>◇引用のしかたや出典の示し方を確認させる。</p> <p>→P143 「達人からのひと言」</p> <p>4 レポートを読み合い、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とレポートを読み合い、資料を適切に引用できているかなどについて、伝え合う。</li> </ul> <p>◇タブレットのコメント機能などを使って交流するとよい。</p> <p>→P341 <b>資</b> 「ICT活用のヒント」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようなことに注意して、資料を引用したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・根拠を明確にして自分の考えが伝わる文章を書くために、どんなことに注意したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・説明や報告の文章を読むときに、引用のしかたに注意することで、どのようなよいことがあるか考える。</li> </ul> <p>◇P140 「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	
11月	<p><b>漢字に親しもう3</b></p> <p>1時間</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)イ）</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）</p>	1	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>→ <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」</p> <p>2 練習問題に取り組む。</p> <p>→P19 「言葉を調べる（漢和辞典）」</p> <p>→P260 「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308 <b>資</b> 「一年生で学習した漢字」</p> <p>→P321 <b>資</b> 「一年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257 「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。</p> <p>【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
11月	<p><b>文法への扉2</b></p> <p><b>言葉の関係を考えよう</b></p> <p><b>文法2 文の組み立て</b></p> <p>2時間</p> <p>◎単語の類別について理解することができる。（知・技(1)エ）</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）</p>	1-2	<p>1 P147の導入や教材文を読み、言葉の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わかりやすく伝えるためには文節どうしの関係を理解する必要があることに気づく。</li> </ul> <p>→ <b>二次元コード</b> 「文法ワーク」</p> <p>2 P246 「文法2 文の組み立て」を読み、「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」を理解する。</p> <p>→ <b>二次元コード</b> 「練習問題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。</li> </ul>	<p>【知・技】単語の類別について理解している。(1)エ)</p> <p>→ 「文節どうしの関係」「連文節」「文の成分」「文の組み立て」について、理解を深めている。</p> <p>【主】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別の前提となる文の組み立てについて理解しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			・P250「書くことに生かす」を読み、文章の推敲に生かせることを知る。	
11月	聴きひたる 大阿蘇 1時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード「朗読音声」 ・繰り返しの表現や、繰り返しながら変化していく表現などに注目する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇阿蘇の風景を動画や静止画などで見せるとよい。 2 詩の朗読を聞いて感じたことや考えたことを交流する。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →詩の朗読を聞いて、それぞれの言葉がどのように使われているかを考えている。 【主】進んで言葉の響きやリズムを味わい、語感を磨きながら、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
11月	季節のしおり 秋 ・事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の植物や動物にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ詩や和歌、俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしへの心にふれる				
11月	古典の世界 音読を楽しむ いろは歌 1時間 ◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知るができる。(知・技(3)イ) ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 P152「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、随筆、漢文・漢詩など、3年間でさまざまな古典作品に触れることを知る。 2 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 →二次元コード「『いろは歌』朗読音声」 ・三段目の現代語訳と関連づけながら読む。 ◇七五調の「今様」であることに触れるのもよい。	【知・技】 ・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。(3)イ →小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。 ・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。 【主】古文を積極的に、繰り返し音読し、3年間の学習の見通しをもって、古典の世界に親しもうとしている。
11月	蓬萊の玉の枝 ——「竹取物語」から 4時間 ◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確か	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 古典の文章を音読し、現代の文章との違いを確かめる。 ・古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。(課題1-①) →二次元コード「『竹取物語』朗読音声」 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇小学校の高学年で、「竹取物語」冒頭部分は既に	【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア →音読に必要な文語のきまりや、古典特有のリズムを確かめながら音読し、古典の世界に親しんでいる。 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。





月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>◇例文に線を引かせる。教科書の類題を準備し、練習させ定着させるとよい。</p> <p>2 P187の例題や問題2から、原因と結果のつながりに無理がある例を確かめ、パターン別に整理する。</p> <p>・「全くの偶然」「逆の因果関係」「疑似相関」について、筋道の上での問題点を指摘する。</p> <p>◇「全くの偶然」である理由や、「原因と結果が逆」である理由を説明させたり、「隠された別の原因」は何かを指摘させたりするとよい。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・話の筋道を理解したり、筋道を立てて書いたり話したりする際には、原因と結果の関係に気をつけることが大切だということを確認する。</p>	<p>→原因と結果がどうつながっているか整理し、その関係について理解している。</p> <p>【主】今までの学習を生かして、積極的に原因と結果の関係について理解しようとしている。</p>
12月	<p>漢字に親しもう 4 1 時間</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」</p> <p>2 練習問題に取り組む。 →P19「言葉を調べる(漢和辞典)」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308[資]「一年生で学習した漢字」 →P321[資]「一年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。</p> <p>【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
12月	<p>【話し合い(進行)】 進め方について考えよう 1 時間</p> <p>◎意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 二次元コードの動画を視聴し、「やってみよう」①②に取り組む。 →二次元コード「話し合いの様子」</p> <p>2 P190「よりよい話し合いにするために」を読み、話し合うときに効果的な工夫について理解する。 →P272「語彙ブック」(思考するときの言葉)</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・話し合いをよりよく進めるために、どのようなことに気をつければよいか、自分の言葉でまとめる。</p>	<p>【知・技】意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→根拠を述べたり、前の人の意見を受けたりして話すことを理解している。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)</p> <p>→動画を視聴し、話題や展開を捉えながら話し合うための工夫について、自分の考えをまとめている。</p> <p>【主】進んで話題や展開を捉え、学習課題に沿って、話し合いをよりよく進めるために気をつけることについて、考えをまとめようとしている。</p>
12月	<p>季節のおしり 冬</p> <p>・事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国</p>	-	<p>・冬の植物や動物にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ詩や短歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p> <p>◇P62「空の詩 三編」、P228「構成や描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、</p>



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>もに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★学校図書館などを利用し、多様な情報を得て、考えたことなどを報告したり資料にまとめたりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>		<p>◇読書の意義を理解させる活動である。読書案内と、学校図書館の蔵書をリンクさせるなどして、読書が知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを実感させたい。</p> <p>3 P202「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。</p> <p>→P90「本の世界を広げよう」</p> <p>→P290資「幻の魚は生きていた」</p> <p>→P294資「坊っちゃん」</p> <p>→P284資「読書感想文の書き方」</p> <p>◇P202の二次元コードで、他の研究者のインタビュー記事を読めることを伝え、読書を促すとよい。</p> <p>→二次元コード「研究の現場によろこそ」</p>	<p>とを積極的に理解し、今までの学習を生かして考えたことを伝え合おうとしている。</p>

# 2年

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>8 自分を見つける</b>				
1月	<p>少年の日の思い出 [書く]別の人物の視点から文章を書き換えよう 漢字に親しもう5 7時間(読⑤書②)</p> <p>◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★小説を書き換えるなど、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国</p>	<p>1</p> <p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> <li>◇文章の中で語句の意味に注意させる。</li> </ul> <p>2</p> <p>2 作品の展開を捉える。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・語り手の変更に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。</li> <li>・時間、場所、出来事に着目しながら、後半を幾つかの場面に分け、それぞれ短くまとめる。</li> </ul> <p>3-4</p> <p>3 表現に着目して、「僕」の心情の変化をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「僕」から見たエーミールの人柄を端的に表している語句や表現を抜き出す。(課題2-①)</li> <li>・クジャクヤママユのうさを聞いてから、それを盗み、壊してしまうまでの「僕」の心情の変化をまとめる。(課題2-②)</li> <li>・収集したちょうを押し潰してしまった「僕」の行動の意味を考える。(課題2-③)</li> <li>◇作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとするとよい。</li> <li>→P221「言の葉」</li> </ul> <p>5-7</p> <p>4 別の人物の視点から文章を書き換える。(課題③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誰の視点から、どの場面を書き換えるかを決め、作品の展開に沿って書き換える。</li> <li>→P221「カギ」「語り手の視点に着目する」</li> <li>→P276「資」「『学びのカギ』一覧」(文学)</li> <li>→二次元コード「学びの地図」</li> <li>◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるとよい。</li> <li>・書き上げた文章を読み合い、気づいたことを発表し合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの語句や表現から、語り手や語り手から見た他の登場人物の人物像が伝わってきたかを挙げる。</li> <li>・「僕」のものの見方について、自分との共通点・相違点はどこか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考えや作品の印象はどのように変わったかを挙げる。</li> </ul> <p>6 P222「漢字に親しもう5」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→二次元コード「漢字一覧表」</li> <li>→P19「言葉調べる(漢和辞典)」</li> <li>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</li> <li>→P308「資」「一年生で学習した漢字」</li> <li>→P321「資」「一年生で学習した音訓」</li> <li>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> <li>◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</li> </ul>	<p>【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すと同時に、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ)</p> <p>→行動描写や情景描写、心情を表す言葉に着目している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)</li> <li>→時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C(1)オ)</li> <li>→登場人物のものの見方について、自分の考えをもっている。</li> <li>・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→読み深めたことを基に、別の人物の視点から出来事や心情を捉え直して、作品を書き換えている。</li> </ul> <p>【主】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えようとしている。</p> <p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ)</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作ったり、中学校で学習する漢字の読み方について理解したりしている。</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)		◇他の四字熟語を、その意味とともに紹介するとよい。	【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
1月	文法への扉3 単語の性質を見つけよう 文法3 単語の分類 2時間 ◎単語の類別について理解することができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 P223の例題に取り組み、単語の性質について考える。 ・単語を組み合わせる過程で、性質の違いに気づき、それによって分類できることを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」 2 P251「文法3 単語の分類」を読み、「自立語・付属語」・「活用の有無」、「品詞」、「体言と用言」について理解する。 →二次元コード「練習問題」 ・下段の練習問題に取り組み、理解したことを確認する。 ◇必要に応じて、P255-256の活用表を用いて理解を深めさせるとよい。	【知・技】単語の類別について理解している。 (1)エ) →「単語の分類」「品詞」「体言と用言」について、理解を深めている。 【主】今までの学習を生かして、積極的に単語の類別について理解しようとしている。
1月	二十歳になった日 4時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 (学びに向かう力、人間性等) ★随筆を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3 4	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 随筆の内容を捉える。(課題1) ・心情を表す語句や表現などに着目し、筆者が「二十歳になった日」に感じたことを挙げる。 3 構成や表現の効果について考える。 ・構成で工夫されていると思う点を話し合う。(課題2-①) ・筆者の思いや考えが伝わる表現について、「どう書かれているか」に着目して表現の効果を考える。(課題2-②) →P227「カギ」「表現の効果を考える」 →P276「資」『学びのカギ』一覽(文学) →二次元コード「学びの地図」 4 自分が考える表現の効果について語り合う。(課題3) ・自分が注目した表現とその効果について、考えたことをグループで語り合う。 ◇P228「構成や描写を工夫して書こう」の前段階の学習であることを踏まえて指導するとよい。 5 学習を振り返る。 ・特に印象に残った語句や表現を挙げる。 ・構成や表現の効果に着目することで、随筆のどんな特徴に気づいたか、自分の言葉でまとめる。 ・随筆を書くときに生かしたいことを挙げる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →心情を表す語句や表現に着目し、感じたことを言語化している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ) →本文中の具体的な記述を挙げながら、構成の工夫や表現の効果について考えている。 【主】進んで心情を表す表現とその効果について考え、学習したことを生かして筆者のものの見方を捉え、随筆を読み味わおうとしている。
2月	構成や描写を工夫して書こう 体験を基に随筆を書く 5時間 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)ウ) ◎書く内容の中心が明確になる	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレクソン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレクソン」 1 随筆の題材を選ぶ。 ・随筆に取り上げたい体験の一つを選び、伝えたいことを明確にする。 →P224「二十歳になった日」 →P282「資」「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことの	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ウ) →体験や思いを伝えるために、情景や心情を表す言葉を適切に選んで使っている。 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割な

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆など、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	2 3 4-5	<p>ミニレッスン」内) →P9「思考の地図」</p> <p>2 材料を書き出し、整理する。 ・取り上げる体験に関する事実や、自分にとっての意味など、随筆の材料を付箋などに書き出し、整理する。</p> <p>3 構成を考える。 ・書き出した材料を基に、構成を考える。 →P229 <b>カギ</b>「構成を工夫して書く」 →P280 <b>窓</b>「『学びのカギ』一覧」(書く) → <b>二次元コード</b>「学びの地図」 ◇P230「随筆の例」を参考にさせる。導入では「印象的な書きだし」を、体験の説明では「読み手が状況をイメージできる具体的な描写」を意識し、最後に「自分にとっての意味、価値」を書くことを伝え、構成のイメージをもたせるとよい。 ・自分の伝えたいことが明確に伝わる構成になっているか、友達と助言し合う。</p> <p>4 随筆を書く。 ・書きだしや結び、描写を工夫して、600～800字程度で書く。 →P230「達人からのひと言」 →P231 <b>言の葉</b> ◇タブレットなどを活用し、文章の書きだし部分を共有して、参考にさせ合うとよい。 →P341 <b>窓</b>「ICT活用のヒント」</p> <p>5 随筆を読み合う。 ・構成や描写で工夫したことや、友達の文章で参考にしたいことなどをまとめる。</p> <p>6 学習を振り返る。 ・体験や思い、意味を伝えるために、特に吟味して選んだ言葉を挙げる。 ・伝えたい内容が効果的に伝わるように、構成を工夫した部分はどこか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の随筆を読み、次に自分が文章を書くときに生かしたいと思った工夫を一つ挙げる。 ◇P228「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>どを意識して文章の構成や展開を考えている。(B(1)イ) →読み手が状況をイメージできるように、書く内容の中心が伝わるように、構成を工夫している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →体験に基づいて自分の考えを伝えるために、書きだしや結び、描写を工夫している。</p> <p>【主】粘り強く文章の構成や展開を考え、学習の見通しをもって随筆を書こうとしている。</p>
2月	<p>漢字3 漢字の成り立ち 1時間</p> <p>◎学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 漢字の成り立ちについて理解する。 ・「象形」「指事」「会意」「形声」を用例とともに確認する。 ・国字について知る。 ・漢字の分類「六書」について知る。</p> <p>2 漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。 → <b>二次元コード</b>「漢字一覧表」 →P19「言葉調べ(漢和辞典)」</p>	<p>【知・技】学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)イ) →漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。</p> <p>【主】学習課題に沿って、積極的に漢字の成り立ちについて理解しようとしている。</p>
2月	一年間の学びを振り返ろう	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のね	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>要点を資料にまとめ、発表する 4時間（話聞②書②）</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。（知・技(2)イ）</p> <p>◎相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ）</p> <p>◎目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア）</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。（思・判・表A(2)ア）</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。（思・判・表B(2)ア）</p>	1	<p>らいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <p>1 観点を決め、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年間の学習を思い出し、印象に残っていることや興味を引かれたことを挙げ、振り返る観点を決める。</li> <li>・教科書やノートなどを読み返し、情報を集める。</li> </ul> <p>→P235 <b>カギ</b> 「一年間の学びを振り返る」</p> <p>→P280 <b>資</b> 『『学びのカギ』一覧』（話す・聞く、書く）</p> <p>→ <b>二次元コード</b> 「学びの地図」</p> <p>2 情報を整理し、発表内容を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集めた情報を分類したり、比較したりして整理し、発表する内容を決める。</li> </ul> <p>◇カードに書き出し、それらをテーマごとに分類するなどして、発表内容を考えさせるとよい。</p> <p>→P52 「情報整理のレッスン 比較・分類」</p> <p>→P54 「情報を整理して説明しよう」</p> <p>3 発表用資料を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す内容を決め、構成を考える。</li> <li>・スライドやフリップに要点をまとめる。</li> </ul> <p>◇タブレットなどを活用し、資料を作成してもよい。</p> <p>→P341 <b>資</b> 「ICT活用のヒント」</p> <p>→P236 <b>言の葉</b></p> <p>4 グループの中で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スライドやフリップを使って発表し（各3分）、質疑応答を行う（各3分）。</li> <li>・発表の内容や話し方などについて、感想や意見を伝え合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような方法で、集めた情報を整理したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・伝えたいことを明確にするために、どのような点を工夫したか、挙げる。</li> <li>・相手の反応を踏まえて話すときに、どのような点に気がつけたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・1年間の学習を振り返って気づいたことの中で、2年生の学習でも生かしていきたいことを挙げる。</li> </ul> <p>◇P234 「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。（(2)イ）</p> <p>→情報の整理のしかたを理解し、要点をわかりやすく資料にまとめている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。（A(1)ウ）</li> <li>→聞き手の反応を踏まえて、考えがわかりやすく伝わるように、用いる言葉を工夫して話している。</li> <li>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）</li> <li>→「観点」に見合った情報を集めて整理し、発表の要点を資料に書いている。</li> </ul> <p>【主】集めた材料を積極的に整理し、今までの学習を生かして要点を資料にまとめ、発表しようとしている。</p>
3月	<p>ほくが ここに 2時間</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。（知・技(1)オ）</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするができる。（思・判・表C(1)オ）</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）</p> <p>★詩を読み、考えたことなどを</p>	1	<p>「目標」や「学習の見直しをもつ」で本教材のねらいを確認し、学習の見直しをもつ。</p> <p>1 詩を読み、印象に残った表現を発表する。（課題1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩の中で印象に残った言葉や表現を抜き出し、理由とともに発表する。</li> </ul> <p>◇平易な言葉で書かれた短い詩であるため、印象に残った表現を挙げられない生徒が多い場合は、あまり時間をかけずに課題2へと授業を展開するとよい。</p> <p>2 表現の意味や、表現技法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された二つの表現がどういうことを表しているかを考える。（課題2-①）</li> <li>・詩に使われている表現技法や表記・表現のしかたの特徴を挙げて、その効果について話し合う。（課題2-②）</li> </ul>	<p>【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。（(1)オ）</p> <p>→詩に用いられている表現の技法を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。（C(1)オ）</p> <p>→表現や表現技法に着目して読み深めたことを基に、作者の思いを想像し、考えている。</p> <p>【主】積極的に詩を読み味わって考えを深め、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	伝え合う。(思・判・表C(2)イ)	2	→P68「言葉3 ささまざまな表現方法」 3 作者の思いについて語り合う。(課題3) ・読み深めたことを基に作者の思いを想像し、考えたことを語り合う。 4 学習を振り返る。 ・特に効果的だと思った表現技法を挙げる。 ・特に想像を広げることができたのは、詩の中のどの部分か挙げる。 ・交流を通して詩の印象はどのように変化したか、簡単に整理する。	

学びを深める

3月	<p><b>国語の力試し</b> 3時間(読①話聞①書①)</p> <p>◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★互いの考えを伝えるなどして、少人数で話し合う。(思・判・表A(2)イ)</p> <p>★行事の案内や報告の文章を書くなど、伝えるべきことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	1	<p>1 P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから動画を見せ、メモを取らせるほうが望ましい。 →二次元コード「山登りのルートについて」</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。(1)オ)</li> <li>→比喩の表現技法を理解し、使っている。</li> <li>・音読に必要な文語のきまりを知り、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→音読に必要な文語のきまりについて理解している。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。(C(1)ア)</li> <li>→本文中の「発酵」の説明を適切に抜き出している。</li> <li>・「読むこと」において、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。(C(1)エ)</li> <li>→擬人法の表現の効果について、本文に基づいて書いている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」において、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。(A(1)オ)</li> <li>→「山登りのルートについて」の話し合いの展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。</li> <li>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>→案内文で、項目ごとに伝えたいことを整理して明確に書いている。</li> <li>・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述のしかたなどを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</li> <li>→小学六年生を想定して、わかりやすい表現に書き換えている。</li> </ul> <p>【主】</p> <p>今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>
		2	<p>2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 →二次元コード「タブレットやパソコンで問題に取り組もう」 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。</p>	
		3	<p>3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P45「カギ」「段落の役割に着目する」 →P227「カギ」「表現の効果を考える」 →P189「進め方について考えよう」 →P193「カギ」「話題や展開を捉えて話し合う」 →P118「読み手の立場に立つ」 →P116「カギ」「必要な情報を明確に伝える」 →P169「古典の言葉」 →P68「言葉3 ささまざまな表現技法」</p>	

# 2年

4月	<b>見えないだけ</b> <b>1時間</b> ◎語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 詩を読み取る。 ・好きな言葉や表現をノートに書き写し、その理由をまとめる。 ◇言葉や表現が生み出している効果についても確認させる。 2 好きな言葉や表現を発表する。 ◇共感できた考えや自分にはなかった考えをノートにまとめさせる。 3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・友達の発表を聞いて考えたことも踏まえて、詩の内容が効果的に伝わるように工夫して朗読する。	<b>【知・技】</b> 語句について理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中に出てくる好きな言葉や表現を、理由とともにまとめている。 <b>【主】</b> 進んで語感を磨き、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
----	--	---	---	---

## 1 広がる学びへ

4月	<b>アイスブラネット</b> <b>漢字に親しもう1</b> <b>4時間</b> ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →二次元コード「イヌイット」 2 登場人物の設定を確かめる。 ・冒頭部から読み取れるぐうちゃんの人物像を捉える。(課題1-①) ・人物どうしの関係を図で整理する。(課題1-②) ・ぐうちゃんに対する「僕」「母」「父」、それぞれの思いがわかる言動や表現を挙げて関係を捉え、図に書き加える。(課題1-③) →P27 <b>カギ</b> 「登場人物の設定を捉える」 →P276 <b>窓</b> 「『学びのカギ』一覧」(文学) →二次元コード「学びの地図」 3 ぐうちゃんに対する「僕」の思いを読み取る。 ・ぐうちゃんのほら話に対する「僕」の気持ちの変化を捉える。(課題2-①) ・「それ以来、僕は二度とぐうちゃんの部屋には行かなかった。」のはなぜかを考える。(課題2-②) ・手紙と写真を受け取ったときの「僕」の気持ちを、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえて想像する。(課題2-③) ◇手紙の文面から、ぐうちゃんの考えや思いを踏まえさせる。 4 ぐうちゃんに対する自分の考えをまとめる。(課題3) ・ぐうちゃんの考え方や生き方について、自分の生活や経験などと比べながら、考えたことをまとめる。 5 学習を振り返る。 →P27 <b>言の葉</b> ・登場人物の設定を図で整理することには、どんな効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・どんなところに注目して登場人物の設定を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・これまでに読んだ作品の一つ取り上げ、人物の設定を図で整理する。	<b>【知・技】</b> 情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ →登場人物どうしの関係や人物像を図式化して整理している。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →ぐうちゃんの人物像や、登場人物どうしの関係を文章から読み取り、図にまとめている。 <b>【主】</b> 登場人物の設定のしかたなどを積極的に捉え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
----	--	---	--	---

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>6 P28「漢字に親しもう1」に取り組む。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308窓「二年生で学習した漢字」 →P321窓「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
4月	<p>【聞く】 意見を聞き、整理して検討する 1時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 二次元コードの音声を聞いて、水島さんと今西さんの意見と根拠を表で整理し、根拠の適切さを評価する。 ・根拠の客観性や信頼性を確かめたり、意見と根拠の結び付き(「理由づけ」)に無理や飛躍がないか検討したりする。 →二次元コード「二人の意見」</p> <p>2 整理した表を基に、自分はどちらの意見に納得できるか、考える。 ・ペアやグループで意見や根拠の適切さについて話し合っただけで考えを深める。 ◇自分はどちらの意見に近いのか、二人の示したもの他に適切な根拠や「理由づけ」のしかたがないかを考えさせるとよい。</p> <p>3 学習を振り返る。 ・聞き取った意見と根拠を整理し、根拠の適切さについて検討することができたか、確かめる。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →意見と根拠を区別して捉え、適切な根拠の在り方について理解を深めている。 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →発言者の立場を踏まえ、それぞれの意見と根拠を整理して考えをまとめている。 【主】進んで意見と根拠の関係を整理しながら聞き、今までの学習を生かして根拠の適切さなどについて検討しようとしている。</p>
4月	<p>文法への扉1 単語をどう分ける？ 文法1 自立語 2時間</p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1-2	<p>1 P31の導入や解説を読み、単語が幾つかの観点で分類されることを確かめ、そのうち「自立語」について学ぶことを理解する。 →二次元コード「文法ワーク」</p> <p>2 P242「文法1 自立語」を読み、自立語の各品詞の性質などについて理解する。 ・下段の練習問題に取り組む、理解の程度を確かめる。 →二次元コード「練習問題」 ・P242下段「話すこと・書くことに生かす」を読み、ここでの学習を今後の学習に生かせるようにする。</p>	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ) →自立語にどんな品詞があるかを知り、それぞれが文の中で果たす役割について理解を深めている。 【主】学習課題に沿って、積極的に自立語について理解を深めようとしている。</p>
5月	<p>魅力的な提案をしよう 資料を示してプレゼンテーションをする</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 提案内容を決める。</p>	<p>【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア) →相手が自ら行動したいと思えるよ</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p><b>5時間</b></p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫することができる。(思・判・表A(1)イ)</p> <p>◎資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰に(相手)、何を(話題)、何のために(目的)提案するかを確かめる。</li> <li>・現状の課題を見つけ、その解決策を基にするなどして、提案内容を定める。</li> <li>→二次元コード「表現テーマ例集」</li> <li>◇相手が何を知りたいのかを考えさせるとよい。</li> </ul> <p>2 話の構成や表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで進行案を作り、話の構成や提示する資料、役割分担などを考える。</li> <li>→P35「言の葉」</li> <li>→P286「窓」「グラフの見方/引用・出典」</li> <li>◇提示資料の情報は必要最低限に絞らせる。</li> <li>◇写真などを引用する場合は、出典を明記させる。</li> <li>・資料を提示しながら話す練習をする。</li> <li>→P33「カギ」「資料や機器を活用して話す」</li> <li>→P280「窓」『「学びのカギ」一覧(話す・聞く)』</li> <li>→二次元コード「学びの地図」</li> <li>◇資料を提示するタイミングを考えたり、聞き手を意識して話し方に変化をつけたりさせるとよい。</li> </ul> <p>4-5 3 プレゼンテーションをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの人たちに向け、グループごとにプレゼンテーションをする(録画する)。</li> <li>→二次元コード「プレゼンテーションをする」</li> <li>→P29「[[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」</li> <li>→P35「達人からのひと言」</li> <li>→P341「窓」「ICT活用のヒント」</li> <li>◇聞き手には、話の構成や話し方に注意させ、質問を考えながら聞くようにさせる。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いちばん心が動かされた提案をクラスで選び、理由を含めて話し合う。</li> <li>・録画したプレゼンテーションを視聴し、よかった点や改善点を話し合う。</li> <li>◇話し方や話の構成、資料や機器の使い方など、振り返りの観点を明確にするとよい。</li> </ul> <p>・言葉には、相手の心を動かし、行動を促す働きがあることを、学習のどのような場面で実感したか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・聞き手の印象に残るプレゼンテーションにするために、話の構成や資料の作成において、どのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・クラスでの発表を振り返り、次に何かを提案するときには、どんな点を工夫したいか考える。</p> <p>◇P32「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	<p>うな言葉や表現を用いることを意識している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、自分の立場や考えが明確になるように、根拠の適切さや論理の展開などに注意して、話の構成を工夫している。(A(1)イ)</li> <li>→重要なことが効果的に伝わるように話の構成を工夫している。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」において、資料や機器を用いるなどして、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)</li> <li>→プレゼンテーションソフトやフリップなどを用いて、提案内容が視覚的にもわかりやすくなるよう工夫している。</li> </ul> <p>【主】自分の考えがわかりやすく伝わるように粘り強く表現を工夫し、学習の見通しをもってプレゼンテーションをしようとしている。</p>
5月	<p><b>枕草子</b></p> <p>【書く】自分流「枕草子」を書こう</p> <p><b>3時間(読②書①)</b></p> <p>◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方</p>	1	<p>【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「枕草子」を音読し、古文を読み味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> <li>・現代語訳を参考に情景を想像し、古文を音読する。</li> <li>→二次元コード「朗読音声」</li> <li>◇心に残った季節の一節を暗唱させてもよい。</li> <li>◇関連図書などを活用するとよい。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→古典の文章独特の調子やリズムを意識して音読している。</li> <li>・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)</li> </ul>
		2	<p>2 作者のものの見方や感じ方を読み取る。</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★随筆を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(思・判・表B(2)ウ)</p>	3	<p>・冒頭を読み、作者が四季のどんなところに趣を感じているのかを整理し、自分が感じる四季の趣と比べる。</p> <p>・P38の章段を読み、作者が「何」の「どんな」様子を「どう」感じているのかについて整理する。</p> <p>◇P39のコラム「枕草子」を参考にしながら、「枕草子」の特徴を捉えさせる。「徒然草」の学習と関連させてもよい。</p> <p>→P154「仁和寺にある法師」</p> <p>3 自分流「枕草子」を書く。</p> <p>→P39「自分流『枕草子』を書こう」</p> <p>・「枕草子」の形を借りて、自分ならではの季節感を表す文章を400字程度で書く。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・作者のものの見方や考え方について、印象に残っているものを、理由とともに挙げる。</p> <p>・書いた「自分流『枕草子』」を、友達と読み合い、感想をまとめる。</p> <p>◇自他の季節の捉え方の共通点や相違点を明らかにしながら感想をまとめさせる。</p>	<p>→現代語訳や語注を手がかりに「枕草子」を読み、作者のものの見方や考え方を捉えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→作者の考えと自分の考えを比較し、感じたことをまとめている。</p> <p>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</p> <p>→生活を振り返って、自分ならではの季節感を表すものを見つけている。</p> <p>・「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→季節感を表すものについて、その様子が具体的に想像できるよう、語句や表現を選んで書いている。</p> <p>【主】文章を読んで理解したことや考えたことを進んで知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書こうとしている。</p>
5月	<p>季節のしおり 春</p> <p>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・春の行事・暦に関わる言葉や、春の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p> <p>◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
<b>2 多様な視点から</b>				
5月	<p>クマゼミ増加の原因を探る 4時間</p> <p>◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。</p> <p>・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>→P51「言葉」</p>	<p>【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>→文章を構成する六つの部分の関係を図式化して整理している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>→筆者の主張を捉え、それと仮説1～3との関係を理解している。</p> <p>・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。(C(1)ウ)</p> <p>→文章中の図表やグラフが何のためを示されているのかを、対応する文</p>
2	<p>2 全体と部分の関係に注意して、構成を捉える。</p> <p>・「研究のきっかけ」に示された文章全体に関わる問題提起と、その問題についての大きな仮説を確かめる。(課題1-①)</p> <p>・線や矢印を使って、文章を構成する六つの部分の関係を整理する。(課題1-②)</p> <p>◇「前提」を受けて「仮説1～3」があり、それらの検証によって「まとめ」が導き出されていることがわかるように整理できるとよい。</p>			

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おう とする。(学びに向かう力、人 間性等) ★報告や解説などの文章を読 み、理解したことや考えたこ とを説明したり文章にまとめ たりする。(思・判・表C(2)ア)	3-4	3 文章と図表の関係に注意して、内容を読み取る。 ・三つの仮説に対する検証の内容とその結果を、 図表や写真との関係に注意し、それぞれ文章中 の言葉を用いて簡潔にまとめる。(課題2-①) →P51【カギ】「文章と図表を結び付けて読む」 →P278【資】『『学びのカギ』一覧』(説明文) →【二次元コード】「学びの地図」 ◇図表や写真と結び付いている箇所を本文から探 して線を引かせるとよい。 ◇P49の図が「仮説2」と「仮説3」を整理したもの であることを確認する。 ・「研究のきっかけ」に示された大きな仮説は証明 されたといえるか、筆者の考えと、自分の考え を書く。(課題2-②) 4 考えたことを話し合う。(課題3) ・筆者は、なぜ結果的に否定された説と、その検 証結果も示したのか、考えたことをグループで 話し合う。 5 学習を振り返る。 ・図などを用いて情報を整理することには、どん な効果があったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の内容を読み取るうえで、最も効果的だと 感じた図表や写真はどれか、理由も含めて考え をまとめる。 ・図表を含む文章の読み方が、日常生活のどんな 場面で活用できるか挙げる。	章を基に考えている。 【主】積極的に文章と図表などを結び付けて 内容を解釈し、学習の見通しをもって 考えたことを話し合おうとしている。
6月	情報整理のレッスン 思考の視覚化 1時間 ◎情報と情報との関係のさまざ まな表し方を理解し使うこ とができる。(知・技(2)イ) ◎言葉がもつ価値を認識すると ともに、読書を生活に役立て、 我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おう とする。(学びに向かう力、人 間性等)	1	1 教材文を読み、情報の関係を整理して、視覚的に 表す方法を理解する。 →【二次元コード】「漢字の練習」 ◇「観点」、「階層」、「軸」などの用語を理解させ、 今後の学習に生かせるようにしておくとうい。 2 問題1～3に取り組む。 ◇文章で書くのではなく、単語や一文など短い表 現を使うように促す。 ◇視覚的にわかりやすくなるように、付箋や色ペ ンなどを準備して使わせてもよい。 3 学習を振り返る。 ・情報を書き出して整理し、関係を図で表す四つ の方法についてポイントを確認する。	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな 表し方を理解し使っている。(2)イ) →問題1～3に取り組み、情報と情報と の関係を図で表している。 【主】積極的に情報と情報との関係のさまざ まな表し方を理解し、学習したことを 生かして練習問題に取り組もうとし ている。
6月	情報を整理して伝えよう 職業ガイドを作る 5時間 ◎情報と情報との関係のさまざ まな表し方を理解し使うこ とができる。(知・技(2)イ) ◎目的や意図に応じて、社会生 活の中から題材を決め、多様 な方法で集めた材料を整理 し、伝えたいことを明確にし ることができる。(思・判・表 B(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識すると ともに、読書を生活に役立て、 我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おう	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のね らいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」 に取り組みせるとよい。 →【二次元コード】「書くことのミニレッスン」 1 題材を決め、情報を集める。 ・調べる職業を決め、知りたい項目を挙げる。 ・知りたいことに適した調べ方を考え、多様な方 法で情報を集める。 →P284【資】「インタビューをする」 →P285【資】「インターネットの活用」 →【二次元コード】「表現テーマ例集」(「書くことの ミニレッスン」内) ◇図書館や資料館、インターネット、インタビュ ーなど、多様な情報収集の方法を考えさせる。 ◇複数の情報源で調べる、出典を明らかにするな	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな 表し方を理解し使っている。(2)イ) →集めた情報を表や図にまとめ、整理 している。 【思・判・表】「書くこと」において、目的や 意図に応じて、社会生活の中から題材 を決め、多様な方法で集めた材料を整 理し、伝えたいことを明確にしてい る。(B(1)ア) →知りたいことに適した方法を考え て情報を収集し、収集した情報を分 類・整理して自分の目的に合うもの を取捨選択している。 【主】多様な方法で集めた情報を粘り強く整 理し、学習の見通しをもって職業ガイ ドを作ろうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	とする。(学びに向かう力、人間性等) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		ど、既習事項を想起させる。 2 集めた情報を整理する。 ・集めた情報を、図や記号などを使って整理する。 ・目的に合わせて、情報を取捨選択する。 →P29 「[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」 →P52 「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P55 <b>カギ</b> 「多様な方法で集めた情報を整理する」 →P280 <b>窓</b> 「『学びのカギ』一覧」(書く) → <b>二次元コード</b> 「学びの地図」 3 紙面構成を考える。 ・見出しや文章、図・表、グラフ、写真などの配置を考えて、紙面を構成する。 ◇タブレット端末などを用いて、紙面構成を考えさせるとよい。 →P341 <b>窓</b> 「ICT活用のヒント」 4 紙面を作成する。 ・簡潔な文章を心がけて書く。 ・推敲し、清書する。 →P57 <b>言の葉</b> ◇見出しを付け、簡潔な文章にするよう留意させる。 5 感想を伝え合う。 ・作品を読み合い、感想を伝え合う。 ◇わかりやすかったところや、説明の順序や分量、紙面の工夫などについて考えさせる。 6 学習を振り返る。 ・情報を図や記号で整理することには、どのような効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・読み手に何を伝えたいと考え、そのために、集めた情報をどのように整理したか、自分の言葉でまとめる。 ・集めた情報を整理するうえで、いちばん役に立った方法を理由も合わせて書く。 ◇P54 「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
6月	漢字1 熟語の構成 漢字に親しもう2 1時間 ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、熟語の構成の種類について理解する。 ◇身の回りにある熟語を挙げさせ、その構成を説明させてもよい。 2 練習問題に取り組む。 → <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」 3 P60 「漢字に親しもう2」に取り組む。 → <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」 →P260 「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P308 <b>窓</b> 「二年生で学習した漢字」 →P321 <b>窓</b> 「二年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 ◇P257 「[練習] 小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。	【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ) →熟語の構成を意識しながら、漢字を読んだり書いたりしている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
3 言葉と向き合う				
6月	短歌に親しむ 【書く】短歌の創作教室 短歌を味わう	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 P62 「短歌に親しむ」を通読する。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おう とする。(学びに向かう力、人 間性等) ★随筆を読み、引用して解説し たり、考えたことなどを伝え 合ったりする。(思・判・表C(2) イ)		5 学習を振り返る。 ・この文章を読むことで、どのようなものの方 や考え方を得ることができたか、自分の言葉で まとめる。 ・どのような知識や経験と結び付けて、筆者の考 え方を捉えたか、自分の言葉でまとめる。 ・自分の考えが深まるきっかけになった友達の発 言を挙げる。	【主】文章を読んで理解したことや考えたこ とを進んで知識や経験と結び付け、今 までの学習を生かして考えたことを 伝え合おうとしている。
7月	言葉1 類義語・対義語・多義語 語彙を豊かに 抽象的な概念を表す言葉 2時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量 を増すとともに、類義語と対 義語、同音異義語や多義的な 意味を表す語句などについて 理解し、話や文章の中で使う ことを通して、語感を磨き語 彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識すると ともに、読書を生活に役立て、 我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おう とする。(学びに向かう力、人 間性等)	1 2	1 P72導入の課題に取り組み、言葉どうしの関係性に ついて関心をもつ。 2 教材文を読み、類義語・対義語・多義語について 理解する。 ・例を基にして、それぞれの語がどのような関係 にあるのかを考える。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) ◇類義語には、意味が微妙に違うものや、意味は 同じでも語感が違うものがあることに気づかせ るとよい。 ・P73「生活に生かす」を読み、言葉の幅を広げる のに、類義語・対義語に注目するとよいことを 知る。 →二次元コード「漢字の練習」 3 P74のリード文を読み、抽象的な概念を表す言葉を 探す。 →P272「語彙ブック」(抽象的な概念を表す言葉) 4 3で集めた言葉の類義語や対義語を集める。 ◇国語辞典や類語辞典などを活用させるとよい。 →P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」 5 言葉を比べ、用例を考える。 ・集めた言葉を比べ、気づいたことを文章にまと める。 ◇下段「語感を磨く」を参考にさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増 すとともに、類義語と対義語、同音異 義語や多義的な意味を表す語句など について理解し、話や文章の中で使う ことを通して、語感を磨き語彙を豊か にしている。(1)エ) →類義語・対義語・多義語の概念につ いて、具体例を当てはめて理解して いる。 →抽象的な概念を表す語句について、 類義語や対義語と比較することを 通して語感を磨き、語彙を豊かにし ている。 【主】今までの学習を生かして、積極的に類義 語と対義語、多義的な語句、抽象的な概 念を表す語句などについて理解しよう としている。
情報×SDGs				
7月	メディアの特徴を生かして情報 を集めよう デジタル市民として生きる 2時間 ◎意見と根拠、具体と抽象など 情報と情報との関係について 理解することができる。(知・ 技(2)ア) ◎情報と情報との関係のさまざ まな表し方を理解し使うこと ができる。(知・技(2)イ) ◎目的に応じて複数の情報を整 理しながら適切な情報を得 て、内容を解釈することがで きる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識すると ともに、読書を生活に役立て、 我が国の言語文化を大切に して、思いや考えを伝え合おう とする。(学びに向かう力、人 間性等)	1 2	1 メディアを比べて、それぞれの特徴を理解する。 ・P76-77に示されたさまざまなメディアを、「速報 性」「詳細さ」「信頼性」の三つの観点で比較し、 評価する。 ◇教科書の例を参考に、メディアによって配信日 時や情報量に違いがあることに気づかせる。 ・メディアの特徴を踏まえて、P76①-③それぞ れの場合にはどれを選ぶとよいか、考える。 →P52「情報整理のレッスン 思考の視覚化」 →P285窓「インターネットの活用」 2 災害時の情報収集・情報の読み取りについて考 える。 ・P78「やってみよう」に取り組む。 ・災害を想定し、状況に応じてどのようなメ ディアを選ぶとよいか、また、どのように情報 を読み取ればよいかを考える。 ◇「ここをチェック」を参考にするとよい。 3 情報を受け取るときの留意点を考える。 ・P80「デジタル市民として生きる」を通読する。 ・情報の信頼性を判断するポイントについて考 える。	【知・技】 ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情 報との関係について理解している。 (2)ア) →メディアが伝える情報の内容とそ の根拠の適切さに着目している。 ・情報と情報との関係のさまざまな表し 方を理解し使っている。(2)イ) →メディアの特徴を、表や図などにま とめている。 【思・判・表】「読むこと」において、目的 に応じて複数の情報を整理しながら適 切な情報を得て、内容を解釈してい る。(C(1)イ) →メディアの特徴を踏まえ、情報の信頼 性を判断するために必要なことにつ いてまとめている。 【主】複数の情報を進んで整理しながら適切 に読み取り、学習課題に沿って目的や 状況に応じた情報収集のしかたにつ いて考えをまとめようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)		◇「情報の発信源」「発信日時」「情報の根拠」について考えさせるとよい。 →二次元コード「漢字の練習」 4 学習を振り返る。 ・メディアから適切な情報を得るためには、どのような方法で、何を確認すべきか、わかったことをまとめる。 ・自分が今後、メディアから情報を得る際に意識していきたいと思うことを伝え合う。	
いつも本はそばに				
7月	読書を楽しむ 1時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 教材文を読み、さまざまな読書活動を知る。 2 「ブックトーク」、「読書ポスター」、「読みたい本のリスト」の中から、取り組む活動を選ぶ。 ◇学校や地域の状況に応じて活動を決めてもよい。 また、夏休みを利用した活動としてもよい。 3 選んだ活動に沿って、見通しを立てる。 ・ブックトークの場合は、グループごとにテーマを決め、そのテーマに関するさまざまな本を、魅力が伝わるように紹介する。 ・読書ポスターの場合は、グループでテーマを決め、それに合った本を選ぶ。 ・読みたい本のリストの場合は、身の回りの本の情報などを基に、読書ノートに記録する。 ◇教材文を基に、手順やポイントなどを示した活動計画書を用意し、配布するとよい。 4 グループごとに活動を行い、感想を発表し合う。 ◇教室ではなく、学校図書館で授業を展開することも考えられる。 ◇次の教材「翻訳作品を読み比べよう」と併せて指導することも考えられる。	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →活動を通して本の魅力を感じ、今後どんな本を読みたいかを考えている。 【主】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで理解し、今までの学習を生かして、本の魅力や感想を共有しようとしている。
7月	翻訳作品を読み比べよう 星の王子さま コラム 「わからない」は人生の宝物 読書案内 本の世界を広げよう 1時間 ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おう	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 二人の翻訳者による「星の王子さま」を読み比べる。 ・翻訳の違いによる作品の印象の違いについて考え、発表し合う。 ◇人物の言動や様子が描かれた表現を基に、人柄や心情の違いを捉えさせる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 翻訳や外国文学について知る。 ・「星の王子さま」やコラム『「わからない」は人生の宝物』を読み、「翻訳」の意味や、翻訳作品・外国文学のおもしろさについて理解する。 ◇学校図書館から本を借りてきて、実物を見せることなども考えられる。 3 P87「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。 →P290 資「盆土産」 →P299 資「形」	【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ →二つの翻訳やコラムを読んで、本や文章には、さまざまなもの見方や考え方が表れていることを理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →二つの翻訳を比較し、表現の違いによる作品の印象の違いについて考えている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →翻訳の違いによる作品の印象の違いについて意見を交流し、考えを広げたり深めたりしている。 【主】表現の効果について進んで考え、学習課題に沿って二つの翻訳を比べて感

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>とする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>			<p>じたことを発表しようとしている。</p>
7月	<p>季節のしおり 夏</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</li> <li>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏の行事・暦に関わる言葉や、夏の情景を詠んだ短歌や俳句などを味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</li> <li>◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</li> <li>◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</li> </ul>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>4 人間のきずな</b>				
9月	<b>ヒューマノイド</b> <b>4時間</b> ◎話や文章の構成や展開について理解を深めることができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P103「言の葉」	<b>【知・技】</b> 話や文章の構成や展開について理解を深めている。(1)オ) →登場人物の言動や伏線に着目し、それらが話の展開にどのように関わっているのかを考えている。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ) →過去と現在、伏線と結末を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈している。 <b>【主】</b> 登場人物の言動の意味について粘り強く考え、今までの学習を生かして作品の印象を伝え合おうとしている。
2	2 場面の展開に注意して、人物の設定を捉える。 ・「現在」と「過去」を区別して読み、「僕」にとって、「三十歳の六月十日」がどんな意味をもつか、簡潔にまとめる。(課題1-①) ・中学時代のタクジの言動から、人物像を捉える。(課題1-②)	3	3 過去と現在を結び付けて、登場人物の言動を解釈する。 ・タクジは、なぜ「転ばない」ロボットを作らなかったのか、考える。(課題2-①) ・「タクジ、聞いていた話と違うじゃないか。」とあるが、何が違っていて、そのことを「僕」はどのように感じているか、考える。(課題2-②) →P103「カギ」「登場人物の言動の意味を考える」 →P276「窓」『「学びのカギ」一覧』(文学) →二次元コード「学びの地図」 ◇中学時代のタクジとの会話や、現在のタクジの言葉に着目して考えるよう促す。	
4	4 作品を読んで考えたことを語り合う。(課題3) ・作品の構成や人物の言動の意味などに対する解釈を基に、この作品のおもしろさや印象に残った点について、語り合う。 →二次元コード「作者メッセージ」 5 学習を振り返る。 ・「ヒューマノイド」の場面の展開には、どんな特徴があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作品のどの部分とどの部分を結び付けて、登場人物の言動の意味を解釈したか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の解釈を聞いて、新たに気づいた言動の意味や作品のおもしろさを挙げる。			
9月	<b>字のない葉書</b> <b>3時間</b> ◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。(学びに向かう力、人間性等)	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 →P109「言の葉」 →P274「語彙ブック」(結び付きに着目して言葉を広げよう)	<b>【知・技】</b> 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ) →随筆の味わい方について考え、日常の読書に生かせそうな点をまとめている。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →前半部分と後半部分の人物や心情の描かれ方を比較し、表現の効果について考えている。
2	2 二つの思い出を整理する。(課題1) ・前半と後半に書かれた、二つの思い出の内容を整理する。 ◇必要に応じて、時代状況を解説する。既習の1年「大人になれなかった弟たちに……」を想起させてもよい。	3	3 表現に着目して、人物の人物や心情を読み取る。 ・前半の思い出から想像される「父」の人物を、文章中の表現を踏まえて簡潔にまとめる。(課題2-①)	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>★随筆を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	3	<p>・「末の妹」に対する家族の心情を、妹の様子の変化に着目して想像する。(課題2-②)</p> <p>・なくなった「父」に対して、今の「私」がどんな思いを抱いているか、表現に即して考える。(課題2-③)</p> <p>→P109[カギ]「表現の効果を考える」</p> <p>→P276[窓]『『学びのカギ』一覧』(文学)</p> <p>→[二次元コード]「学びの地図」</p> <p>◇前半と後半で、心情や人柄の描かれ方にどんな違いがあるかを考えさせるとよい。</p> <p>4 「父」に対する「私」の思いについて考える。(課題3)</p> <p>・自分が共感できることや、共感しにくいと思うことを発表する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・随筆の味わい方で、日常の読書に生かせそうな点は何か、自分の言葉でまとめる。</p> <p>・「父」という人物を印象深く伝えるために、筆者はどのような工夫をしていたか、考える。</p> <p>・随筆と小説の違いについて、考えを交流する。</p>	
9月	<p><b>表現を工夫して書こう</b> 手紙や電子メールを書く 3時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>	1  2-3	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇授業の導入として、「書くことの実践」に取り組みせるとよい。</p> <p>→[二次元コード]「書くことの実践」</p> <p>1 伝える相手や目的、内容を決める。</p> <p>2 適切な通信手段を選ぶ。</p> <p>◇相手や目的に応じて、手紙とメールのどちらを選ぶか考えさせるとよい。</p> <p>→P288[窓]「いろいろな通信文」</p> <p>3 手紙や電子メールを書く。</p> <p>・それぞれの形式に沿って書く。</p> <p>・自分の思いや用件が伝わるように、効果的な語句や表現を選んで書く。</p> <p>→P110[カギ]「表現を工夫して思いを伝える」</p> <p>→P112「[推敲]表現の効果を考える」</p> <p>→P113「言葉2 敬語」</p> <p>→P280[窓]『『学びのカギ』一覧』(書く)</p> <p>→[二次元コード]「学びの地図」</p> <p>◇相手や目的に応じて敬語を適切に用いたり、思いや用件が的確に伝わるように具体例を入れたりするなど、表現を工夫させるとよい。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <p>・書いた手紙や電子メールを読み合い、敬語の使い方や表現の工夫について確認し合う。</p>	<p><b>【知・技】</b></p> <p>・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア)</p> <p>→何かをお願いする文面などにおいて、どのような言葉を選ぶと、相手に引き受けてもらえるかを考えている。</p> <p>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ)</p> <p>→相手や目的に応じて、敬語を適切に使って書いている。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</p> <p>→自分の思いや考えが伝わるように、具体的な説明を加えたり、表現の工夫をしたりしている。</p> <p><b>【主】</b>自分の考えが伝わる文章になるように積極的に工夫し、学習課題に沿って手紙や電子メールを書くとしている。</p>
9月	<p><b>[推敲]表現の効果を考える</b> 1時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 遠山さんの手紙の下書きを読み、傍線部①～⑧を書き改める。</p> <p>→[二次元コード]「書くことの実践」</p> <p>2 点線部⑦⑧について、より効果的な表現を考える。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・手紙を推敲する際のポイントを確認する。</p> <p>◇推敲前後を比べて気づいたことや、今後どんなときに生かしていきたいかを交流するとよい。</p>	<p><b>【知・技】</b></p> <p>・言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。((1)ア)</p> <p>→どのような言葉を選ぶと、相手の行動を促すことができるかを考えて推敲している。</p> <p>・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。((1)カ)</p> <p>→手紙を推敲し、適切な敬語に書き改めている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)</p>			<p>【思・判・表】「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>→読み手の立場に立って手紙を推敲し、考えや思いがより伝わるような表現に書き改めている。</p> <p>【主】進んで文章を整え、今までの学習を生かして手紙を推敲しようとしている。</p>
9月	<p>言葉2 敬語</p> <p>1時間</p> <p>◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 導入の例文を読み、敬語の使い方について考える。</p> <p>2 教材文を読み、敬語の働きや種類について理解する。</p> <p>3 教材文を読み、敬語の組み合わせについて考える。</p> <p>◇P115「生活に生かす」を読み、実際の生活場面で敬語を使うときの注意点について考えさせるとよい。</p> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p>	<p>【知・技】敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ)</p> <p>→敬語を使う生活場面を想定し、敬語の働きについて理解を深めている。</p> <p>【主】今までの学習を生かして、積極的に敬語の働きについて理解しようとしている。</p>
9月	<p>聞き上手になろう</p> <p>質問で思いや考えを引き出す</p> <p>2時間</p> <p>◎言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 インタビューの準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を読んで、役割を決める。</li> <li>・「今、夢中になっていること」や「最近気になるニュース」をテーマに、インタビューの準備を行う。</li> <li>・教科書の例を参考に、思いや考えを引き出すためにどのように質問したらよいかを考える。</li> </ul> <p>→二次元コード「インタビューをする」</p> <p>◇「話し手としての準備」、「聞き手としての準備」の両方をさせる。</p>	<p>【知・技】言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気づいている。(1)ア)</p> <p>→どのように質問をすると、相手がさらに話したくなるかを考えている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ)</p> <p>→話の要旨や展開に注意しながら聞き、話を広げたり深めたりする質問をしている。</p> <p>【主】論理の展開などに注意して粘り強く聞き、今までの学習を生かして思いや考えを引き出すインタビューをしようとしている。</p>
		2	<p>2 インタビューを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」の役割を交代しながら、一人5分程度でインタビューを行う。</li> </ul> <p>→P116「カギ」「質問で思いや考えを引き出す」</p> <p>→P280「カギ」『学びのカギ』一覧(話す・聞く)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>→P284「カギ」「インタビューをする」</p> <p>◇聞き手と聴衆で話しやすい雰囲気を作り出すように促す。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話し手」、「聞き手」、「聴衆」それぞれの立場から、気づいたことや考えたことを出し合う。</li> </ul>	
10月	<p>漢字2</p> <p>同じ訓・同じ音をもつ漢字</p> <p>漢字に親しもう3</p> <p>1時間</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字</p>	1	<p>1 教材文を読み、同じ訓をもつが、意味の異なる漢字(同訓異字)の使い分けについて理解する。</p> <p>2 教材文を読み、同じ音をもつ漢字から成る言葉(同音異義語)の使い分けについて理解する。</p> <p>3 P119の練習問題とP120「漢字に親しもう3」に取り組む。</p> <p>→二次元コード「漢字一覧表」</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>→文脈や言葉の意味に注意して、漢字</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308[資]「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321[資]「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>を読んだり、書いたりしている。</p> <p>【主】積極的に同訓異字や同音異義語を理解し、学習課題に沿って漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
<b>5 論理を捉えて</b>				
10月	<p><b>モアイは語る——地球の未来</b> 5時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の構成や論理の展開について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1  2  3  4-5	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →[二次元コード]「漢字の練習」</p> <p>2 文章の構成に着目し、内容を捉える。 ・文章全体を序論・本論・結論に分ける。(課題1-①) ◇筆者の主張が書かれている段落(結論)を見つけ、その主張を支えるために序論と本論があることを押さえるとよい。 ・問いと答え、その根拠として示された事実を表にまとめる。(課題1-②)</p> <p>3 論理の展開を吟味する。 ・筆者が考えるイースター島と地球との共通点とは何か、考える。(課題2-①) ・「モアイの秘密」を解き、それを基に地球の未来を語る筆者の論理の展開について、「効果」や「説得力」という観点で吟味し、話し合う。(課題2-②) →P129[カギ]「論理の展開を吟味する」 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P278[資]『「学びのカギ」一覧』(説明文) →[二次元コード]「学びの地図」 ◇本論で述べられたイースター島の事例が、地球の未来を語る上での根拠となっていることに気づかせる。</p> <p>4 筆者の主張に対する意見を文章にまとめる。(課題3) ・自分の知識や経験と結び付け、立場を明確にして、200字程度でまとめる。 ◇P127「モアイ・イースター島研究について」なども参考に、筆者の主張に対する自分の立場を明確に示させる。</p> <p>5 学習を振り返る。 →P129[言葉] ・筆者は本文の中で、何を根拠に、どのような意見を述べているかを挙げる。 ・論理の展開について吟味するとき、最も説得力を感じた友達の意見はどのようなものだったか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開を吟味するとき大切に感じたことを挙げる。</p>	<p>【知・技】意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →筆者の意見(主張)がどのような根拠によって支えられているかを捉えるとともに、より適切な根拠の在り方を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <p>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。(C(1)エ) →文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論理の展開を吟味している。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ) →自分の知識や体験と結び付けながら、筆者の主張に対する自分の意見を文章にまとめている。</p> <p>【主】論理の展開について粘り強く吟味し、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
10月	<p><b>思考のレッスン1</b> <b>根拠の吟味</b> 1時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、根拠の適切さの吟味のしかたと、意見の説得力の高め方について理解する。 ◇P130に示されているような事例が身の回りにないか、考えさせるとよい。</p> <p>2 問題1、2に取り組む。 ◇P131のチェックポイントで、根拠を吟味する観点を押さえるとよい。</p> <p>3 学習を振り返る。 ・文章を読んだり、話を聞いたりするときには、根拠を把握し、その根拠や「理由づけ」が適切かどうかを吟味することが大切だということを確認する。 →二次元コード「漢字の練習」</p>	<p><b>【知・技】</b> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →根拠の適切さを吟味する方法を理解して、問題1、2に取り組んでいる。</p> <p><b>【主】</b> 今までの学習を生かして、積極的に意見と根拠の関係について理解しようとしている。</p>
10月	<p><b>適切な根拠を選んで書こう</b> <b>意見文を書く</b> 5時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 ◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。 →二次元コード「書くことのミニレッスン」</p> <p>1 課題を決め、調べる。 ・地域や社会で話題や問題になっていることなどの中から課題を決める。 →P14「続けてみよう」 →P282[資]「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」(「書くことのミニレッスン」内) ・課題に関する情報を集めて、自分の意見を決め、それを支える根拠を探す。</p>	<p><b>【知・技】</b> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) →自分の意見を支えるための適切な根拠を選んでいる。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <p>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ) →段落のまとまりを意識して、自分の意見が明確に伝わるよう文章の構成を決めたり、段落の順序を検討したりしている。</p> <p>・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →根拠として適切な事実と、意見と根拠を無理なく結び付ける「理由づけ」を示し、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</p> <p><b>【主】</b> 粘り強く根拠の適切さを考え、学習の見通しをもって意見文を書こうとしている。</p>
		2	<p>2 構成を考える。 ・適切な根拠を選び、「理由づけ」を考える。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 ◇根拠と「理由づけ」についてグループ内で助言を求める場をもたせるとよい。 ・読み手にとってわかりやすい段落の構成を考え、全体の構成を決める。 →P133[カギ]「適切な根拠を選び、構成を工夫する」 →P280[資]『「学びのカギ」一覧』(書く) →二次元コード「学びの地図」 →P341[資]「ICT活用のヒント」 ◇タブレット端末などを活用して、文章の構成を検討させてもよい。</p>	
		3-4	<p>3 意見文を書く。 ・600～800字程度でまとめる。 ・根拠の適切さ、「理由づけ」の説得力などの観点で推敲する。 →P134[言の葉]</p>	
		5	<p>4 交流する。 ・意見文を友達と読み合い、納得できた点や疑問点、改善点などを伝え合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・どのようなことに注意して、自分の意見を支える根拠を選んだか、確かめる。 ・自分の意見を明確に伝えるために、どのような基準で根拠を選び、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・意見をわかりやすく伝える工夫の中で、次に使ってみてみたいものを一つ挙げる。</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			◇P132「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
10月	聴きひたる 月夜の浜辺 1時間 ◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読音声を読み、言葉の響きやリズムを味わう。 →二次元コード「朗読音声」 ・七音の繰り返しのリズムや反復表現に注目する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・「忍びず」、「袂」、「沁みる」などの語句の意味を確認する。 2 表現に着目し、その効果について考える。 ・反復表現や対句表現、反語表現に着目し、詩の情景や作者の心情を想像する。 ・七音の繰り返しのリズムや反復の効果を感じ、情景や心情を想像しながら読む。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →詩の中の語句に着目し、詩全体の世界を豊かに想像している。 【主】進んで表現の効果について考え、今までの学習を生かして詩を味わおうとしている。
10月	季節のしおり 秋 ・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・秋の行事・暦に関わる言葉や、秋の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。 ◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。	【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ →作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。
6 いにしえの心を訪ねる				
10月	音読を楽しむ 平家物語 「平家物語」の世界／ 「平家物語」の主な登場人物たち 1時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 「平家物語」の冒頭部分を音読し、独特の調子とリズム、言葉の響きを味わう。 →二次元コード「『平家物語』冒頭 朗読音声」 2 『『平家物語』の世界』『平家物語』の主な登場人物たち』を読み、「平家物語」の概要や文章の特徴、主要な登場人物やあらすじについて知る。 →P304「敦盛の最期」 3 冒頭部分の現代語訳を読み、「平家物語」を貫く「無常観」を知る。 4 作品を貫く「無常観」と重ねて、再度冒頭部分を朗読する。 ・歴史的仮名遣いに注意して読む。 ◇漢語を交えた七五調のリズムを意識して暗唱させる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →冒頭部分の現代語訳や、「平家物語」のあらすじを読んで、「無常観」を感じ取っている。 【主】進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
11月	扇的 —— 「平家物語」から 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通し	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。 →二次元コード「『平家物語』朗読音声」	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →「平家物語」の、漢語を巧みに交えた独特の調子やリズムを意識して朗読している。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>て、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	2 3	<p>2 朗読して古典のリズムを楽しむ。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平家物語」の冒頭部分や「扇的」の原文を繰り返し朗読し、古文独特の調子やリズムを楽しむ。</li> </ul> <p>3 登場人物の言動から、心情を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・与一、見送る源氏の武士たち、義経の思いをそれぞれの言動から考える。(課題2-①)</li> <li>・「あ、射たり。」と言った人と、「情けなし。」と言った人の気持ちについて話し合う。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 読み取ったことを基に自分の考えを述べる。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「平家物語」の登場人物たちの言動から読み取ったものの見方や考え方に対する、自分の考えを述べる。</li> </ul> <p>◇登場人物の言動を文章から引用して、考えたことを述べさせるとよい。</p> <p>◇P141「『平家物語』の世界」、P151「弓流し」の場面、P304「<b>窓</b>」<b>「</b>敦盛の最期」を読んで、武士の生き方や価値観などを捉えさせてもよい。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朗読を通して、古文の調子やリズムについてどんなことを感じたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・登場人物の言動を通して、共感できた人物、できなかった人物は誰か、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・作品を読んで、現代に通じる(現代とは違う)と感じた部分などを挙げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)</li> <li>→与一や義経の言動、扇的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。</li> </ul> <p>【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)</p> <p>→「扇的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。</p> <p>【主】登場人物の言動の意味について進んで考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。</p>
11月	<p>仁和寺にある法師 ——「徒然草」から</p> <p>【書く】人物の特徴を捉えて論じよう 3時間(読②書①)</p> <p>◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ることができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことを伝え合ったりする。(思・</p>	1 2 3	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> <li>・歴史的仮名遣いの読み方を確認する。</li> <li>→二次元コード「『徒然草』朗読音声」</li> <li>→P156「係り結び」</li> </ul> <p>2 現代語訳や注を手がかりにして読み、文章の内容を捉える。(課題1)</p> <p>3 本文を読み、内容をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁和寺の法師の勘違いの内容を、P155脚注の絵を使って説明する。(課題2-①)</li> </ul> <p>◇仁和寺の法師と同じような経験をしたことがないか、考えさせてもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作者が仁和寺の法師の勘違いをどのように捉えているか、判断できる部分を古文から抜き出す。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 作者の考え方について話し合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁和寺の法師の描き方や、「少しのことも…」の一文から、作者のものの見方や考え方、人物像を想像して話し合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この作品には、どのような「ものの見方や考え方」が表れていたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・どの記述を基に、作者のものの見方や考え方、人物像を想像したか、確かめる。</li> <li>・作者のものの見方や考え方は、現代でも通用するかどうか考える。</li> </ul> <p>6 人物の特徴を捉えて、論じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P157「人物の特徴を捉えて論じよう」を読み、手</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。</li> </ul> <p>・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ)</p> <p>→現代語訳や語注などを手がかりにして読み、文章に表れた作者のものの見方、考え方を理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</li> <li>→仁和寺の法師の描き方などを踏まえて、作者のものの見方について考えたことを話し合っている。</li> </ul> <p>・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係などを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。(B(1)イ)</p> <p>→人物像が明確に伝わるように、文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じている。</p> <p>【主】積極的に知識や経験と結び付けて考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	判・表C(2)イ) ★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)		順を確かめる。 ・「扇の的」や「仁和寺にある法師」の登場人物の中から、論じる人物を決める。 ・選んだ人物の特徴を捉えて、人物像を300字程度の文章にまとめる。 →P270「語彙ブック」(人物を表す言葉) 7 文章を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う。 8 学習を振り返る。 ・原文の内容を踏まえて登場人物の特徴を捉え、わかりやすく伝えられるように文章の構成を工夫したか、確かめる。	を書こうとしている。
11月	漢詩の風景 3時間 ◎作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をすることができる。(知・技(3)イ) ◎観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★漢詩などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1 2 3	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 →二次元コード「漢詩 三編 朗読音声」 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 ◇返り点や訓読のしかたを振り返るとよい。 2 漢詩に描かれた情景や心情を読み取る。(課題1) ・漢詩に描かれた季節、情景、作者の心情を、解説の文章を手がかりにして読み取る。 3 構成や表現の効果を味わう。 ・それぞれの漢詩について、筆者が目にした構成や表現とその効果を、簡潔にまとめる。(課題2-①) ・漢詩の中から気に入った表現を選び、引用して、表現の効果やよいと思った理由を伝え合う。(課題2-②) 4 漢詩の特徴を生かして朗読する。 ・グループで朗読の会を開き、漢詩に描かれた情景や心情、構成や表現の効果などが伝わるように工夫して朗読する。(課題3-①) ◇漢詩特有の言葉遣いや調子に着目させるとよい。 ・何を伝えるために、どんな工夫をしたかを交流し、互いの朗読の優れたところを伝え合う。(課題3-②) ◇P164「律詩について」を読み、絶句と律詩の違いを理解させる。好きな漢詩を選ぶ際、教材の三つの漢詩に「春望」を加えることもできる。 5 学習を振り返る。 ・漢詩のどのような特徴が伝わるように朗読したか、自分の言葉でまとめる。 ・漢詩に使われている表現の中で特に効果的だと感じたものは何か、自分の言葉でまとめる。 ・朗読のしかたを工夫したり、友達の朗読を聞いたりする中で、新たに発見したことや、理解が深まったことを挙げる。	【知・技】 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。(3)ア) →漢詩の構成や表現の特徴を意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手がかりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。(3)イ) →解説の文章を手がかりにして、詩の作者の思いを想像し、古人のものの見方、考え方について考えを深めている。 【思・判・表】「読むこと」において、観点を明確にして漢詩を比較するなどし、漢詩の構成や表現の効果について考えている。(C(1)エ) →好きな漢詩を選び、気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝え合っている。 【主】進んで漢詩の構成や表現の効果を考え、今までの学習を生かして朗読しようとしている。
7 価値を語る				
11月	君は「最後の晚餐」を知っているか 「最後の晚餐」の新しさ 5時間 ◎情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎観点を明確にして文章を比較	1-2	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 二つの文章を比べながら読み、内容を捉える。 ・筆者の着眼点や、筆者が端的に「最後の晚餐」を	【知・技】情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。(2)イ) →二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、観点を明確にし

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★評論や解説の文章を読み、理解したことや考えたことを説明したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	3-4 5	<p>評した言葉に、印を付ける。(課題1-①) →P179 <b>言葉</b></p> <p>・「君は『最後の晩餐』を知っているか」の筆者が、「最後の晩餐」を「かつこいい」と思った理由を、本文中の言葉を使って説明する。(課題1-②)</p> <p>・『最後の晩餐』の新しさで筆者が指摘する「新しさ」について、本文で取り上げられている「新しさ」の要素を挙げる。(課題1-③)</p> <p>3 文章を比較し、気づいたことを話し合う。(課題2)</p> <p>・「最後の晩餐」の魅力の説明する方法(説明のしかた)や、文章の書き方、表現の特徴といった観点で二つの文章を比較し、気づいたことやその効果について考えたことを話し合う。 →P179 <b>カギ</b> 「観点を明確にして文章を比較する」 →P278 <b>資</b> 『学びのカギ』一覧(説明文) → <b>二次元コード</b> 「学びの地図」</p> <p>◇二つの文章を表に整理して観点ごとに比較させる。P179に示されている観点を参考にしてまとめるとよい。</p> <p>4 筆者の意図や目的を考える。(課題3)</p> <p>・筆者はそれぞれ、読者に何を伝えるためにこのような書き方を選んだのか、文章を書いた目的と書き方の特徴を結び付けて考える。 → <b>二次元コード</b> 「筆者インタビュー」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <p>・文章に含まれる情報を表で整理することには、どんな効果があるか、自分の言葉でまとめる。 ・同じ題材について述べた二つの文章には、どんな違いがあったか、自分の言葉でまとめる。 ・文章の比較を通して気づいたことの中で、次に論説や評論を読むときに生かせそうなことを挙げる。</p>	<p>て文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。(C(1)エ)</p> <p>→文章の構成や表現の特徴などについて、二つの文章を比較して発見したことを話し合っている。</p> <p>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→二つの文章を比較したり、書き方の特徴を捉えたりすることで、筆者が文章を書いた意図や目的についての自分の考えを深めている。</p> <p><b>【主】</b>進んで観点を明確にして文章を比較し、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
11月	<p><b>思考のレッスン2</b> <b>具体と抽象</b> <b>1時間</b></p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 教材文を読み、具体と抽象について理解する。 ◇「具体」、「具体化」、「抽象」、「抽象化」などの用語を理解させ、今後の学習に生かせるようにしておくとうい。</p> <p>2 問題1、2に取り組む。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <p>・考えを伝え合うときに、具体と抽象の観点を意識しながら話し合うと理解が深まることを確認する。 → <b>二次元コード</b> 「漢字の練習」</p>	<p><b>【知・技】</b>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア)</p> <p>→複数の情報をまとめて抽象化したり、言葉の意味を具体例を挙げて説明したりしている。</p> <p><b>【主】</b>学習課題に沿って、積極的に具体と抽象の関係について理解しようとしている。</p>
12月	<p><b>季節のしおり 冬</b></p> <p>・抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・冬の行事・暦に関わる言葉や、冬の情景を詠んだ短歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P66「短歌の創作教室」、P110「表現を工夫して書こう」、P224「描写を工夫して書こう」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p><b>【知・技】</b>抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p><b>【主】</b>伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	<p><b>【話し合い（進行）】</b> 話し合いの流れを整理しよう 1時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 進行役になったつもりで話し合いの様子を視聴する。 →二次元コード「話し合いの様子」</p> <p>2 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見をまとめる。 ◇要点を絞ってメモを取るよう促す。</p> <p>3 P184下段の「話し合いの流れを整理するために」を参考に、まとめた意見を見直す。 ◇単なる意見の羅列ではなく、意見どうしの関係や、意見に対する評価も合わせてまとめるよう促す。</p> <p>4 見直して気づいたことを手がかりに、話し合いの流れを整理するときに必要なことをグループで話し合う。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・話し合いの流れを整理する際のポイントを確認する。</p>	<p><b>【知・技】</b>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →意見と根拠の関係に注意して、話し合いの内容を聞き取っている。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →意見の内容や意見どうしの関係に気をつけて、話し合いの流れを整理している。</p> <p><b>【主】</b>話し合いの流れを整理するときに必要なことを進んで考え、今までの学習を生かして話し合おうとしている。</p>
12月	<p><b>文法への扉2</b> 走る。走らない。走ろうよ。 文法2 用言の活用 2時間</p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1-2	<p>1 P185の導入や解説を読み、動詞の語の形の変化のしかたに規則性があることを知る。 →二次元コード「文法ワーク」</p> <p>2 P246「文法2 用言の活用」を読み、「活用」の意味や活用形などの用語、動詞・形容詞・形容動詞の活用について理解する。 ・下段の練習問題に取り組み、理解の程度を確認する。 →二次元コード「練習問題」 ◇必要に応じて、P250の活用表を参照し、表の見方や語の変化の規則性を確認するとよい。</p>	<p><b>【知・技】</b>単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(1)オ →用言の活用形と活用の種類について、語例を基に理解している。</p> <p><b>【主】</b>今までの学習を生かして、積極的に用言の活用について理解しようとしている。</p>
12月	<p><b>立場を尊重して話し合おう</b> 討論で視野を広げる 4時間</p> <p>◎意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★それぞれの立場から考えを伝えるなどして、議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 テーマについて情報を集める。 ・テーマと用語の定義を全体で確認する。 ・各自、現状やメリット・デメリットを調べ、根拠となる情報を集める。 →P14「続けてみよう」 →P282「発想を広げる」 →二次元コード「表現テーマ例集」 ◇賛否や是非の分かれるものを選ばせるとよい。</p> <p>2 立場に分かれ、考えをまとめる。 ・立場(肯定側・否定側)を決め、意見と根拠、理由づけを整理する。 →P130「思考のレッスン1 根拠の吟味」 →P132「適切な根拠を選んで書こう」</p> <p>3 グループで討論する。 ・司会1名を決め、肯定側2名・否定側2名で討論する。 ◇グループの中で役割を交代しながら討論を行うとよい。</p>	<p><b>【知・技】</b>意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →適切な根拠となる情報を集め、意見と根拠、理由づけを整理している。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「話すこと・聞くこと」において、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめている。(A(1)オ) →互いの意見の共通点や相違点、話し合いの論点を踏まえて質問したり反論したりし、振り返りにおいて自分の考えをまとめている。</p> <p><b>【主】</b>進んで互いの立場や考えを尊重し、学習の見通しをもって討論しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>→P116「聞き上手になろう」</p> <p>→P183「[話し合い(進行)]話し合いの流れを整理しよう」</p> <p>→P187【カギ】「互いの立場や意見を尊重する」</p> <p>→P280【窓】『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く)</p> <p>→【二次元コード】「学びの地図」</p> <p>→【二次元コード】「討論をする」</p> <p>◇タブレット端末などを用いて、討論の様子を録画させておくとよい。</p> <p>→P341【窓】「ICT活用のヒント」</p> <p>4 討論を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手側の意見や質問などを通して得られた新たな気づきを報告し合う。</li> <li>・司会は、肯定側・否定側のよかった点を伝え、共有する。</li> </ul> <p>◇録画を見て振り返るようにするとよい。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意見を裏づける適切な根拠を示すために、どんなことに気がつけたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・異なる立場や意見を尊重しながら話し合ううえで、どのような発言が効果的だったか、確かめる。</li> <li>・実際に体験してわかったことを基に、討論が役立ちそうな場面を挙げる。</li> </ul> <p>◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	
12月	<p><b>漢字に親しもう4</b></p> <p>1時間</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたい。思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P190「漢字に親しもう4」に取り組む。</p> <p>→【二次元コード】「漢字一覧表」</p> <p>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308【窓】「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321【窓】「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。</p>	<p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。</p> <p>【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
いつも本はそばに				
12月	<p><b>「自分らしさ」を認め合う社会へ父と話せば／</b></p> <p><b>六千回のトライの先に</b></p> <p><b>読書案内 本の世界を広げよう</b></p> <p>1時間</p> <p>◎本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすことができる。(知・技(3)エ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P192「父と話せば」を通読する。</p> <p>◇筆者の著書を紹介するとよい。</p> <p>2 P195「六千回のトライの先に」を通読する。</p> <p>◇原典の本を紹介するとよい。</p> <p>3 感想を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、初めて知ったこと、興味をもったこと、疑問に思ったことなどを伝え合う。</li> </ul> <p>4 P200「本の世界を広げよう」を参考に、今後読みたい本を考える。</p>	<p>【知・技】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。(3)エ</p> <p>→実体験を基に書かれた作品の魅力に触れ、今後読みたい本を選んでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</p> <p>→教材文を自分の知識や経験と結び付けて読み、感想を伝え合っている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★本や新聞、インターネットなどから集めた情報を活用し、出典を明らかにしながら、考えたことなどを説明したり提案したりする。(思・判・表C(2)ウ)</p>		<p>→P290資「盆土産」</p> <p>→P299資「形」</p> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p>	<p>【主】本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを進んで知り、今までの学習を生かして感想を伝え合おうとしている。</p>

# 3年

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>8 表現を見つめる</b>				
1月	<p>走れメロス</p> <p>【書く】作品の魅力をまとめ、語り合おう</p> <p>漢字に親しもう5</p> <p>8時間(読⑥書②)</p> <p>◎抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈することができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★多様な考えができる事柄について意見を述べるなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p> <p>◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)</p>	<p>1-2</p> <p>3-5</p> <p>6-8</p>	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>◇初読の感想を書かせておくと、課題3で作品の魅力を語る際に、学習の初めと終わりで作品の印象や自分の考えがどのように変わったかを振り返ることもできる。</p> <p>2 作品の設定と場面の展開を押さえる。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の設定を確かめ、人物、時、場所、出来事などに着目して幾つかの場面に分ける。</li> </ul> <p>3 場面の展開に即して人物像を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面で、メロスと王はどんな人物として描かれているかを考える。(課題2-①)</li> <li>・村から刑場に向かう途中、メロスの考え方や心情は、どんな出来事をきっかけに、どのように変化したかを考える。(課題2-②)</li> <li>・王の考え方や心情は、何をきっかけにどう変化したかを考える。(課題2-③)</li> </ul> <p>→P221「カギ」人物像に着目する」</p> <p>→P276「資」『学びのカギ』一覧(文学)</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>◇場面の展開と人物像の変化を結び付けて読み取らせるとよい。</p> <p>4 作品の魅力をまとめ、語り合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が感じた作品の魅力を文章にまとめる。</li> <li>・まとめた文章を基に、作品の魅力をグループで語り合う。</li> </ul> <p>→P221「言の葉」</p> <p>◇原作(詩「人質」シラー作)を合わせて読み、構成や表現の特徴について、共通点・相違点を整理し、「走れメロス」の魅力を考える学習も考えられる。</p> <p>→P179「カギ」「観点を明確にして文章を比較する」</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの語句に着目して、作品の魅力を語ったか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・友達との交流で新しく気づいた作品の魅力にはどんなものがあるか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・他の文学作品を読むときに生かせそうな、分析の観点を挙げる。</li> </ul> <p>6 P222「漢字に親しもう5」に取り組む。</p> <p>→二次元コード「漢字一覧表」</p> <p>→P260「小学校六年生で学習した漢字一覧」</p> <p>→P308「資」「二年生で学習した漢字」</p> <p>→P321「資」「二年生で学習した音訓」</p> <p>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</p> <p>◇P257「練習」小学校六年生で学習した漢字」に</p>	<p>【知・技】抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)エ)</p> <p>→作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。(C(1)イ)</li> <li>→メロスや王の言動に着目して、考え方や心情の変化を読み取っている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。(C(1)オ)</li> <li>→読み深めたことや、文学の読み方に関する知識・経験を生かして作品の魅力进行分析し、自分の考えを広げたり深めたりしている。</li> <li>・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。</li> </ul> <p>【主】登場人物の言動の意味などについて粘り強く考え、学習の見通しをもって作品の魅力や文章をまとめている。</p> <p>【知・技】第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ)</p> <p>→文や文章の中で漢字を読んだり書いたりしている。</p>



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を読み合い、表現の工夫とその効果について、感想や助言を伝え合う。</li> <li>友達の感想や助言などを踏まえ、自分の作品のよい点や改善点を見いだす。</li> </ul> ◇作品評価の観点を示したワークシートなどを用意し、それに基づいて交流させるとよい。 ◇タブレット端末などの書き込み機能を活用して、助言させ合ってもよい。 →P341【資】「ICT活用のヒント」 5 学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>新たに使えるようになった言葉や表現には、どんなものがあるか、挙げる。</li> <li>心が動いた瞬間を読み手に伝えるために、表現においてどのような工夫をしたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>物語を書いたり作品を読み合ったりする中で気づいた、描写を工夫することのよさや効果について、話し合う。</li> </ul> ◇P224「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	
2月	<b>言葉3 話し言葉と書き言葉</b> <b>2時間</b> ◎話し言葉と書き言葉の特徴について理解することができる。(知・技(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	1 導入の例文から、話し言葉と書き言葉の違いについて考える。 ◇学校生活の話題を、簡単な話し言葉と書き言葉で表現してその違いに気づかせるとよい。 2 音声の性質から話し言葉の特徴を、文字の性質から書き言葉の特徴を捉え、それぞれの伝え方の注意点や工夫について理解する。 ・同音異義語の伝え方を理解する。(話し言葉) ・漢字、平仮名、片仮名、句読点、常体・敬体の使い方に注意する。(書き言葉) ◇P229「生活に生かす」を用いて、SNSでのコミュニケーションを考える学習につなげることもできる。	<b>【知・技】</b> 話し言葉と書き言葉の特徴について理解している。(1)イ →話し言葉と書き言葉について、それぞれの特徴を理解し、表現する際にどのような注意が必要かを考えている。 <b>【主】</b> 今までの学習を生かして、積極的に話し言葉と書き言葉の特徴について理解しようとしている。
2月	<b>漢字3 送り仮名</b> <b>2時間</b> ◎第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1  2	1 導入の例から、送り仮名が漢字の読みを明らかに示すために付けられていることを確認する。 2 教材文を読み、送り仮名の付け方の主な原則と例外について理解する。 ◇P230下段「活用のある語」では、表中の[ ]に活用語尾を直接書き込んでよい。 ◇活用語尾などについて、P246文法2「用言の活用」で確認させる。 3 P231の練習問題に取り組む。 ◇教材の語以外に、間違えやすい送り仮名にはどのようなものがあるかを考えさせるとよい。 →P321【資】「二年生で学習した音訓」 →【二次元コード】「漢字一覧表」	<b>【知・技】</b> 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)ウ →送り仮名に注意して、漢字を読んだり書いたりしている。 <b>【主】</b> 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。
2月	<b>国語の学びを振り返ろう</b> <b>「国語を学ぶ意義」を考え、コピーを作る</b> <b>4時間(話聞①書③)</b> ◎意見と根拠、具体と抽象など	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 対話を通して考える。 ・1年間の学習を振り返り、できるようになったことや、自分が変わったと思うことを語り合う。	<b>【知・技】</b> 意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。(2)ア →これまでの学習活動における具体的な変化を抽象化してまとめている。



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			達の発言にはどんなものがあったか、振り返る。 ・「鍵」という作品との出会いで自分の考えがどう変化したか、ひと言で表す。	
<b>国語の力試し</b>				
3月	<b>国語の力試し</b> <b>3時間</b> ◎類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解することができる。(知・技(1)エ) ◎敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うことができる。(知・技(1)カ) ◎文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア) ◎観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えることができる。(思・判・表C(1)エ) ◎論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切にしたいし、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典作品などを読み、引用して解説したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★説明や提案など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問や助言などをしたりする。(思・判・表A(2)ア) ★社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く。(思・判・表B(2)イ)	1 P263-266の問題に取り組む。 ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 ◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。 →「二次元コード」タブレットやパソコンで問題に取り組もう ◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声聞かせ、メモを取らせるほうが望ましい。 →「二次元コード」話す力・聞く力 2 P262の二次元コードから、発展問題に取り組む。 →「二次元コード」タブレットやパソコンで問題に取り組もう ・40分を目安に問題を解く。 ・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。 3 3 振り返る。 ・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。 →P36「枕草子」 →P109「カギ」表現の効果を考える →P29「[聞く] 意見を聞き、整理して検討する」 →P112「[推敲] 表現の効果を考える」 →P110「カギ」表現を工夫して思いを伝える →P113「言葉2 敬語」 →P72「言葉1 類義語・対義語・多義語」	<b>【知・技】</b> ・類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解している。(1)エ) →類義語の意味や用法を比較し、文脈に応じてより適した語を選んでいる。 ・敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。(1)カ) →敬語の働きや種類を理解し、電子メールの下書きを推敲したり、文面を書いたりしている。 <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「枕草子」の原文と、二つの現代語訳を比較して読み、文章の中心的部分を捉えている。 ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、表現の効果について考えている。(C(1)エ) →「枕草子」の二つの現代語訳を比較して読み、表現の効果について考えている。 ・「話すこと・聞くこと」において、論理の展開などに注意して聞き、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。(A(1)エ) →「卒業生に贈る言葉」についての野口さんの提案を論理の展開に注意して聞き、伝えたいことを捉えようとするとともに、自分の考えをまとめている。 ・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ) →気持ちや用件が的確に伝わるように電子メールを書いている。 ・「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。(B(1)エ) →読み手の立場に立ち、表現の効果をj考えて電子メールを推敲している。 <b>【主】</b> 今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。	

# 3年

4月	<p><b>世界はうつくしいと</b> 1時間</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 詩を音読する。 ◇読むスピードや音量、読む人数などを変えて、詩を複数回音読させる。詩の内容を考えながら句点で句切り、交替で音読させるのもよい。</p> <p>2 詩を読み深める。 ・詩を読んで気づいたこと(表現の工夫・作者の意図・特徴的な表現など)を探し、書き出す。 ◇言葉・文字の使い方・リズム・表現技法などに着目させるとよい。 ・隣どうして気づいたことを共有する。 ・自分にとっての「うつくしいもの」を考え、グループで交流する。</p> <p>3 詩の特徴を生かして朗読する。 ・自分なりの解釈を踏まえて、詩を朗読し、最初に読んだときと比べて、詩に対する印象はどのように変わったか、自分の言葉でまとめる。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →詩に用いられている語句や表現に着目して考えている。</p> <p>【主】進んで語感を磨き、友達の考えや今までの学習を生かして詩の解釈や朗読をしようとしている。</p>
1 深まる学びへ				
4月	<p><b>握手</b> <b>漢字に親しもう1</b> 4時間</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 作品の設定を捉える。(課題1) ・「現在」と「回想」の部分を読み分けながら出来事を整理し、場面や登場人物の設定を確認する。 ◇回想を織り込んだ展開の特徴を捉え、その効果を考えさせる。 →P27「カギ」「展開のしかたを捉える」 →P256「資」『「学びのカギ」一覧』(文学) →二次元コード「学びの地図」</p> <p>2-3 3 登場人物の心情や人物像を読み取る。 ・「わたし」とルロイ修道士との間で交わされた、3回の握手に込められた二人の思いを考える。(課題2-①) ・ルロイ修道士の葬式で、「わたし」が「知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。」ことの意味を考える。(課題2-①) ◇語り手の心情を表す言葉、登場人物の言動や会話、情景描写、出来事など、本文中の表現を根拠にして考えさせる。 ◇心情を表す言葉を本文から二つ程度見つけさせ、全体で共有してからそれぞれの学習に移るとよい。 ・ルロイ修道士の人物像が読み取れる言葉や行動を抜き出し、どのような人物かを短くまとめる。(課題2-②) ◇ルロイ修道士の場面ごとの状況や立場、年齢などを踏まえ、エピソードから読み取れる性格や価値観、ものの方や考え方を捉えさせる。 ◇人物像を表す言葉を本文から二つ程度見つけさせ、全体で共有してからそれぞれの学習に移るとよい。 →P27「言の葉」</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →抽象的な概念を表す語句などを用いて、登場人物の人物像を表している。</p> <p>【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア) →「現在」と「回想」の部分を読み分け、物語の展開のしかたの効果について考えている。 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章の内容に沿って登場人物の生き方や価値観を読み取り、自分の知識や経験と比較しながら考えている。</p> <p>【主】物語の展開のしかたを粘り強く捉え、今までの学習を生かして読み深めた感想を交流しようとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	4	<p>4 読み深めた感想を交流する。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み深めたことを踏まえ、ルロイ修道士の考え方や生き方について、自分で考えたことや感じたことを伝え合う。</li> </ul> <p>→P252「語彙ブック」(批評するときの言葉)</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人物像を表す語句や表現の中で、特に印象に残ったものを挙げる。</li> <li>・「握手」の展開のしかたには、どんな特徴や効果があったか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・ルロイ修道士について、友達と交流することで考えが深まったことを挙げる。</li> </ul> <p>6 P28「漢字に親しもう1」の新出漢字を確認する。 →二次元コード「漢字一覧表」</p> <p>7 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇熟語の構成、部首、漢字の音訓などの既習事項を思い出させる。</li> <li>◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。</li> </ul> <p>→P306[窓]「三年生で学習した漢字」 →P317[窓]「三年生で学習した音訓」 →P318[窓]「常用漢字表」</p>	<p>【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることに慣れている。</p> <p>【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
4月	<p><b>【聞く】</b> <b>意見を聞き、適切さを判断する</b> <b>1時間</b></p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。(思・判・表A(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 坂本さんのスピーチの練習を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中学生は全員、ボランティア活動をするべきだ」という坂本さんのスピーチを、メモを取りながら聞く。</li> </ul> <p>◇教科書を見せず、音声だけで内容を把握させる。 →二次元コード「坂本さんのスピーチ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取りメモと、P30「意見を聞き、適切さを判断するために」を基に、坂本さんの意見や、その根拠が適切かどうかを判断する。</li> </ul> <p>2 スピーチをよりよくするための助言を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・坂本さんの練習相手になったつもりで、助言を考える。</li> <li>・自分で考えた助言を友達と共有する。</li> </ul> <p>◇別の聞き取り教材を教師が準備して、生徒に助言を考えさせてもよい。 →P262[窓]「発想を広げる」</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の意見を聞き、適切さを判断するために、どのような点に注意して聞いたかを挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ) →根拠としている情報について、事実関係や裏づけなどに注意して聞いている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、社会生活の中から話題を決め、多様な考えを想定しながら材料を整理し、伝え合う内容を検討している。(A(1)ア) →多様な考えをもつ聞き手の存在を想定しながら、意見と根拠、理由づけの適切さを判断し、改善策を検討している。</p> <p>【主】聞き取った内容や意見と根拠の適切さを進んで評価し、今までの学習を生かして助言を考えようとしている。</p>
4月	<p><b>文法への扉1</b> <b>「走って」いるのは誰？</b> <b>文法1 文法を生かす</b> <b>1時間</b></p> <p>◎単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解する</p>	1	<p>1 教材文を読み、文法的な観点から表現を見直すことの意義を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・導入の課題に取り組み、AさんとBさんとの間で食い違いが生まれた原因について考える。</li> <li>・どうすれば食い違いが生じなかったのか、文法的な観点から話し合う。</li> </ul> <p>→二次元コード「文法ワーク」</p>	<p>【知・技】単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解している。(2年(1)オ) →既習の文法事項が、日常の会話や文章を見直したり文の表現効果を考えたりする際の判断基準になるこ</p>



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p><b>1時間</b></p> <p>◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>2 相手や場に応じた言葉遣いについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手や場に応じた言葉遣い」を読み、相手との間柄や場などを踏まえて、言葉遣いを選ぶ必要があることを理解する。</li> </ul> <p>3 相手や場に応じた表現について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相手や場に応じた表現の選び方」を読み、相手や場にふさわしい表現を選ぶために、気をつけるとよいことを理解する。</li> <li>・P37下段「やってみよう」に取り組む。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手や場にふさわしい言葉遣い・表現を選ぶために、何に気をつければよいかを確かめる。</li> </ul>	<p>(1)エ)</p> <p>→敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、実際の使用場面を想定しながら、適切な使い方を考えている。</p> <p>【主】相手や場に応じた言葉遣いや表現の選び方について進んで理解し、今までの学習を生かして練習問題に取り組もうとしている。</p>
5月	<p>学んで時に之を習ふ ——「論語」から 漢文の訓読</p> <p><b>2時間</b></p> <p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★漢文を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1-2	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 「論語」について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材冒頭の解説とP40のコラム「孔子と弟子たち」を読む。</li> <li>◇国語便覧や社会科資料集などを使って、孔子が生きた時代の歴史的背景などを確認させる。</li> <li>・新出漢字を調べる。</li> <li>→<b>二次元コード</b>「漢字の練習」</li> </ul> <p>2 「論語」を読み、孔子の考え方を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の書き下し文や訓読文を、漢文の言い回しや歴史的仮名遣いと現代仮名遣いに注意して、繰り返し朗読する。</li> <li>◇必要に応じて、P38-40の脚注を参考に、訓読の方法や返り点の種類などを確認させる。</li> <li>→<b>二次元コード</b>「『論語』朗読音声」</li> <li>→P41「漢文の訓読」</li> <li>・教科書の現代語訳を基に、孔子が伝えたいことを要約する。</li> <li>◇生徒の実態に応じて、要約を家庭学習にしてもよい。</li> </ul> <p>3 日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまると思われる体験を伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇「論語」の他の章句も現代語訳を付けて紹介し、選択肢を増やすとよい。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「論語」の中から、自分たちの生活に生かしていきたい言葉を選び、伝え合う。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→教材文を参考に歴史的背景を押さえ、教材の書き下し文や訓読文、現代語訳を読むことを通して、「論語」の世界に親しんでいる。</li> <li>・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ)</li> <li>→日常生活を振り返り、孔子の言葉が当てはまる体験を伝え合っている。</li> </ul> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→人間の生き方に関する孔子の考え方を、自分の生き方や生活と関連づけて考えている。</p> <p>【主】人間、社会、自然などについて積極的に自分の意見を持ち、今までの学習を生かして考えを伝え合おうとしている。</p>
5月	<p>季節のしおり 春</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</li> <li>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春の気象にまつわる言葉や、春の情景を詠んだ俳句や和歌、漢詩を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</li> <li>◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。</li> <li>◇春をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。</li> </ul>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→作品中の「春」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
<b>2 視野を広げて</b>				
5月	<p>作られた「物語」を超えて</p> <p><b>3時間</b></p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	2	<p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> <li>→二次元コード「ドラミングをするゴリラ」</li> </ul> <p>2 論理の展開を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴリラの事例の概要を、教科書に示された3点に着目して捉える。(課題1-①)</li> <li>・この文章の論理の展開を、教科書に示された2点に着目して捉える。(課題1-②)</li> <li>◇「意見と根拠」「原因と結果」「具体と抽象」などの概念を使って、論理の流れや関係などを整理させるとよい。</li> <li>→P51「カギ」「論理の展開を捉える」</li> <li>→P52「思考のレッスン 具体化・抽象化」</li> <li>→P258「資」『『学びのカギ』一覧(説明文)』</li> <li>→二次元コード「学びの地図」</li> </ul> <p>2 3 筆者の主張を捉える。(課題2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者は、作られた「物語」を超えて真実を知るために、どうすべきだと主張しているか、要約する。</li> <li>→二次元コード「筆者インタビュー」</li> </ul> <p>3 4 筆者の主張について考え、文章にまとめる。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が指摘する人間の性質について、思い当たる事例を一つ挙げ、今後どのようなことを意識していきたいか簡潔にまとめる。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>→P51「言葉」</li> <li>・この文章の中で、具体と抽象の関係にあるものは何かを挙げる。</li> <li>・論理の展開を捉えるときには、どんな点に着目すると効果的か、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・今後、自分が意見文を書く際に、論理の展開に説得力をもたせるために活用できそうな工夫を一つ挙げる。</li> </ul>	<p>→ゴリラの事例と人間社会の話に着目して、「具体と抽象」の関係を理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</p> <p>→論説の特性を踏まえ、「具体と抽象」の関係に着目して、論理の展開のしかたを図式化するなどして捉えている。</p> <p>【主】進んで文章の構成や論理の展開を捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
6月	<p>思考のレッスン 具体化・抽象化 1時間</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P52の教材文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体と抽象の関係で捉えられるものや、具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたについて理解する。</li> <li>・下段の問題1に取り組む。</li> <li>◇P52「抽象への展開を示す言葉」を活用させる。</li> <li>→P253「語彙ブック」(もの見方を表す言葉)</li> <li>・まとめた文をお互いに伝え合う。</li> </ul> <p>2 P53の教材文を通読し、具体化と抽象化の程度について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の問題2に取り組む。</li> <li>◇「例えば」以外にも、P52「具体への展開を示す言葉」を活用させるとよい。</li> <li>・グループになって、各自が作った具体例の具体化の程度を順序づけ、全体に発表する。</li> <li>◇問題2の答えを付箋紙などに書かせておくと、グループでの分類作業が効率的に行える。</li> <li>◇ICT機器などを活用して、発表内容を全体で共有できるよう工夫するとよい。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んだり書いたりするときには、具体と</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→具体と抽象の関係にある論理の展開のしかたや、具体と抽象の程度を捉えながら読んだり書いたりしている。</p> <p>【主】具体と抽象の関係について積極的に理解し、学習した内容を生かして問題に取り組もうとしている。</p>



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		4 P60「漢字に親しもう2」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 →二次元コード「漢字一覧表」 →P306窓「三年生で学習した漢字」 →P317窓「三年生で学習した音訓」 →P318窓「常用漢字表」	
<b>3 言葉とともに</b>				
6月	<b>俳句の可能性</b> <b>【書く】俳句の創作教室</b> <b>俳句を味わう</b> <b>4時間(読②書②)</b> ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎俳句の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★俳句を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ) ★俳句を創作するなど、感じたことや想像したことを書く。(2年思・判・表B(2)ウ)	1	◇「俳句の可能性」「俳句の創作教室」「俳句を味わう」は、関連させながら一体的に扱うとよい。 「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 俳句の特徴を確認する。 ・リズムや言葉の響きに注意して、それぞれの俳句を朗読する。(課題1-①) ・俳句の決まり事や形式を確認する。(課題1-②) →二次元コード「漢字の練習」 2 筆者の評価のしかたを捉える。(課題2) ・それぞれの俳句に描かれた情景や心情と、筆者が着目した表現、その表現の効果として筆者が考えたことをまとめる。 3 好きな俳句を選び、鑑賞文を書く。 ・P62「俳句の可能性」やP68「俳句を味わう」から、好きな俳句を一句選ぶ。(課題3-①) ・表現の意図を考え、表現のしかたを評価して、200字程度の鑑賞文を書く。(課題3-②) ◇感じたことや想像したことだけではなく、そう感じさせた表現や特徴を具体的に示させる。 ・同じ俳句を選んだ生徒でグループを作り、鑑賞文を読み合う。 4 学習を振り返る。 ・俳句の表現意図や目的に対して、特に効果的だと感じた語句を挙げる。 ・友達の鑑賞文を読んで、新しく気づいた表現の魅力や工夫について、自分の言葉でまとめる。 ・表現のしかたの中で、俳句の創作に生かせそうなことを挙げる。	<b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →俳句で使われている語句の意味を理解したり、豊かなイメージを喚起する効果的な語句に着目したりしている。 <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、俳句の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →語句の選び方や表現のしかたに着目して俳句を読み、筆者の評価のしかたを捉えている。 ・「書くこと」において、表現のしかたを考えるなど、自分の考えがわかりやすく伝わる俳句になるように工夫している。(B(1)ウ) →自分の思いや考えがわかりやすく伝わるように、語句や表現を工夫して俳句を創作している。 <b>【主】</b> 進んで表現のしかたなどを評価し、学習課題に沿って鑑賞文を書いたり俳句を創作したりしようとしている。
		3-4	5 P66「俳句の創作教室」に取り組む。 ・示された作句法などを基に、俳句を作る。 ◇学校図書館から、名句集や歳時記などを借りてきて、参考にさせるとよい。 →P248「語彙ブック」(心の動きを表す言葉) ・作品を持ち寄り、P67「句会を開こう」を参考にし、句会を行う。 →二次元コード「句会の様子」 ◇選んだ俳句や紹介された俳句のよい点をメモさせるとよい。	
6月	<b>言葉の釣糸を垂らす</b> <b>2時間</b> ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や	1	「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 全文を通読する。 ・新出漢字を調べる。 →二次元コード「漢字の練習」 2 題名の意味を捉える。(課題1) ・「言葉の釣糸を垂らす」とはどうすることで、それによってどんな効果があるかを、まとめる。	<b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →文章中の語句・表現から、印象に残ったものや、よいと思ったものを挙げ、その理由や効果について考えている。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、文章を

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)</p>	2	<p>3 筆者のものの見方や考え方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の例を参考に、「言葉の釣り糸」を垂らす「実験」を行うことで引き出された記憶や考えを、200字程度でまとめる。(課題2-①)</li> <li>・筆者は、「書く」ことを、どのような行為だと考えているかについて、「実験」をしてわかったことや、最後の一文を踏まえて、グループで話し合う。(課題2-②)</li> </ul> <p>4 文章を読んでよいと思ったところを話し合う。(課題3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者のものの見方・考え方や、その伝え方、表現のしかたにおいて、よいと思ったところを話し合う。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者が文章の中で用いた語句・表現の中で、印象に残ったものを挙げる。</li> <li>・筆者のものの見方・考え方に対する自分の考えは、「実験」の前後でどのように変化したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・今後、文章を書くときに取り入れてみたいと感じた、筆者の提案や考え方を挙げる。</li> </ul>	<p>批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</p> <p>→筆者の「書く」ことに対する考えについて、自分の記憶や経験を踏まえながら考えている。</p> <p>【主】筆者のものの見方や考え方を積極的に読み取り、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。</p>
7月	<p>言葉2 和語・漢語・外来語語彙を豊かに 時代や世代による言葉の変化 1時間</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解することができる。(知・技(3)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P72導入の例を基に、和語・漢語・外来語の表現を比較し、受ける印象の違いについて考える。</p> <p>2 教材文を読み、和語・漢語・外来語・混種語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・例を参照しつつ、それぞれの特徴を理解する。</li> <li>・P73「生活に生かす」を読み、和語・漢語・外来語をどのように使い分けるのがよいか、生活の中の具体的な場面を想定して考える。</li> </ul> <p>3 言葉の変化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・P74「語彙を豊かに」の教材文を読み、「時代による言葉の変化」と「世代による言葉の変化」があることを知る。</li> <li>・これまでに読んだ本や世代の異なる人との会話などを手がかりにして、時代や世代によって意味や使い方が異なる言葉の例を探し、話し合う。</li> </ul> <p>→P272[窓]「高瀬舟」 →P286[窓]「古典・近代文学の名作」</p> <p>4 相手に合わせて、言葉を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話す相手を自由に設定し、P75上段にある文章をわかりやすく書き換える。</li> <li>・書き換えた文章を伝え合い、自分の文章を振り返る。</li> <li>・クラス全体で適切な言い方について確認する。</li> </ul> <p>→P72「言葉2 和語・漢語・外来語」 →[二次元コード]「漢字の練習」</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、和語、漢語、外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</li> <li>→和語・漢語・外来語について理解し、相手や場面に応じて適切に使い分けている。</li> <li>・時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解している。(3)ウ)</li> <li>→古典や近代文学、年配の人との会話の例などの中から、自分たちの世代とは異なる言葉の使い方を見つけている。</li> </ul> <p>【主】進んで和語・漢語・外来語を理解し、今までの学習を生かして、相手や場面に応じて適切に使い分けようとしている。また、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて進んで理解し、学習課題に沿って相手や場面に応じた言葉を選んで伝えようとしている。</p>
情報×SDGs				
7月	<p>実用的な文章を読もう 報道文を比較して読もう 2時間(読①書①)</p> <p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深める</p>	1	<p>◇ここでの学習は、P84「情報整理のレッスン 情報の信頼性」と関連させながら扱うと効果的である。</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P76「やってみよう」①に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・下段の[A]・[B]から、青田市では、それぞれの物をどのように分別したらよいか、読み取る。</li> </ul> <p>◇分別のしかたが読み取れる部分に線を引いたり</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</li> <li>→示された資料や身の回りの実用的な文章から、表現の特徴について理解を深めている。</li> <li>・具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</li> </ul>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>ことができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★報道などの文章を比較するなどして読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p> <p>★実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える。(思・判・表C(2)ウ)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	2	<p>印を付けたりさせるとよい。</p> <p>2 P77「やってみよう」②に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループを作り、実用的な文章には、他にどんなものがあるか、具体的な例を身の回りから挙げる。</li> <li>・実用的な文章を読むときには、どんなことに注目して読めばよいか、考えて話し合う。</li> </ul> <p>3 P78-81の報道文 <b>A</b>・<b>B</b> を通読し、P82「やってみよう」に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示された観点を参考に、二つの記事を比べ、表に整理する。</li> </ul> <p>◇P82の表を基に、記事の内容を整理できるワークシートを用意するとよい。</p> <p>◇なかなか書きだせない生徒には、P83「達人の視点」を読ませて参考にさせたり、P253「語彙ブック」(ものの見方を表す言葉、情報を読み取って伝える言葉)に掲載された言葉を活用させたりするとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表に整理したことを基に、記事について気づいたことや考えたことを300字程度でまとめる。</li> <li>・報道文を読むときに気をつけるとよいことについて考える。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実用的な文章を適切に読み取るには、どのようなことに注意するとよいか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・報道文には、発信者の立場や意図が反映されていることを踏まえて、自分が今後、報道文を読む際に気をつけたいことをグループで伝え合う。</li> </ul> <p>→<b>二次元コード</b>「漢字の練習」</p>	<p>→複数の資料を比較し、共通点や相違点を捉え、情報と情報との関係について理解を深めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)</li> </ul> <p>→発信者の立場や意図を踏まえ、情報の信頼性や妥当性を吟味している。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</li> <li>→実用的な文章の特徴を踏まえ、目的に応じて情報を読み取っている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→事実や事例の選び方、取り上げ方や、語句・写真の選び方、レイアウトなどに着目して批判的に記事を読み、書き手の意図について考えている。</li> <li>・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア)</li> <li>→観点ごとに情報を整理し、情報の客観性や信頼性を確認している。</li> </ul> <p><b>【主】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の種類を踏まえて、積極的に情報を読み取り、学習課題に沿って実生活への生かし方を考えようとしている。</li> <li>・文章の構成や論理の展開、表現のしかたなどを進んで捉え、学習課題に沿って報道文を比較し、自分の考えをまとめようとしている。</li> </ul>
7月	<p>情報整理のレッスン</p> <p>情報の信頼性</p> <p>1時間</p> <p>◎情報の信頼性の確かめ方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>1 P84の教材文を通読し、問題1に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアが伝える情報は編集されているため、情報の信頼性を吟味する必要があることを確認する。</li> <li>・P84中段「チェックポイント」の観点を参考にし、P84下段の問題1に取り組む。</li> </ul> <p>2 P85の教材文を通読し、問題2に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ事実でも、情報の発信者の受け止め方や伝え方などによって、情報を受け取る側の印象も変わることを確認する。</li> <li>・P85上段 <b>A</b>・<b>B</b> を基に、客観的事実と思われる出来事を抽出し、発信者がどのような意図で報じたかを考える。</li> <li>・P85中段「チェックポイント」の観点を参考にし、P85下段の問題2に取り組む。</li> </ul> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の信頼性の確かめ方について、生活の中で大切にしたいことを挙げる。</li> </ul> <p>◇前の教材で扱った実用的な文章の信頼性と併せ</p>	<p><b>【知・技】</b> 情報の信頼性の確かめ方を理解し使っている。(2)イ)</p> <p>→情報の発信日時、発信源、情報を伝える目的などの観点から、情報の信頼性を確認している。</p> <p><b>【主】</b> 積極的に情報の信頼性の確かめ方を理解し、学習したことを生かして問題に取り組もうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			て振り返らせてもよい。 →P76「実用的な文章を読もう」 →P78「報道文を比較して読もう」	
いつも本はそばに				
7月	<b>読書を楽しむ</b> <b>1時間</b> ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	1 さまざまな読書の楽しみ方について知る。 2 『『私の一冊』の紹介』、「ブックレビュー」、「三年間の読書の振り返り」の中から、夏休みに行う活動を選ぶ。 ・『『私の一冊』の紹介』、「ブックレビュー」を選んだ生徒は、2～6人程度のグループを作る。「三年間の読書の振り返り」は個人で行う。 ◇学校や地域の状況に応じて、教師が活動を決めてもよい。 ◇P94「本の世界を広げよう」のテーマや本を参考にし、取り組ませてもよい。 3 教材文に示されている各活動の内容に沿って、今後の見通しを立てる。 ◇活動計画などを示したワークシートを用意し、配付するとよい。 4 活動を行い、レポートか活動報告書を提出する。 ・「三年間の読書の振り返り」を選んだ生徒はP87を参考にレポートを、『『私の一冊』の紹介』または「ブックレビュー」を選んだ生徒はグループごとに活動し、活動報告書を夏休み明けに提出する。 ◇レポートや活動報告書を作成するためのワークシートを用意し、配付するとよい。 ◇次の教材『『私の一冊』を探しにいこう』と併せて指導することも考えられる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) →P256 <sup>資</sup> 『『学びのカギ』一覧』(文学) →P258 <sup>資</sup> 『『学びのカギ』一覧』(説明文)	<b>【知・技】</b> 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →読書活動を通して、読書の楽しさや意義を発見している。 <b>【主】</b> 進んで読書の意義と効用について理解し、学習の見通しをもって読書を楽しむ活動に参加しようとしている。
7月	<b>「私の一冊」を探しにいこう</b> <b>羊と鋼の森</b> <b>読書案内 本の世界を広げよう</b> <b>コラム</b> <b>ためになるってどんなこと？</b> <b>1時間</b> ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を読み、本のさまざまな探し方について知る。 → <sup>二</sup> 次元コード「漢字の練習」 2 学校図書館やインターネットを活用するなど、探し方を工夫して、興味をもてそうな本を探す。 ◇P94「本の世界を広げよう」を参考にしてもよい。 →P96「私の一冊」 →P97「ためになるってどんなこと？」 →P268 <sup>資</sup> 「二つの悲しみ」 →P272 <sup>資</sup> 「高瀬舟」 3 見つけた本を夏休みなどを利用して読む。 ◇読書活動を促すために、書評やポップを書く活動を取り入れるとよい。P88の例を参考にさせたり、書き方(あらすじや作者の紹介、引用のしかた、レイアウトの工夫など)を示したワークシートを用意して配付したりするとよい。 ◇本の魅力が伝わる書評やポップを作ること、そのために工夫が必要であることを意識させる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) →P256 <sup>資</sup> 『『学びのカギ』一覧』(文学) →P258 <sup>資</sup> 『『学びのカギ』一覧』(説明文) ◇前の教材「読書を楽しむ」と併せて指導することも考えられる。	<b>【知・技】</b> 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →本のさまざまな探し方について理解し、今後の読書生活への生かし方を考えている。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →登場人物の生き方、作品に描かれた時代、社会状況などの観点から、自分の考えを書評などにまとめている。 <b>【主】</b> 進んで本の探し方について理解し、今までの学習を生かして本を選んだり読んだことを書評などにまとめたろうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			◇本の探し方や書いたものを共有し、よいところを交流させるとよい。	
7月	<b>季節のしおり 夏</b> ・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	-	・夏の気象にまつわる言葉や、夏の情景を詠んだ俳句や和歌を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。 ◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。 ◇夏をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。	<b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →作品中の「夏」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。 <b>【主】</b> 伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>4 状況の中で</b>				
9月	<b>挨拶</b> <b>——原爆の写真によせて</b> <b>2時間</b> ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩の構成や表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1	<b>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</b> <b>1</b> 作品を通読し、当時の時代背景について確認する。 ・注意する語句を調べる。 ・作品ができた背景や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 <b>2</b> 「顔」が象徴しているものを捉える。(課題1) ・詩の中で繰り返し出てくる「顔」が、それぞれ誰の、どのような様子を表しているのか考える。 <b>3</b> 表現の効果を評価する。 ・第6連にある「午前八時一五分は／毎朝やってくる」という表現の意味と、その効果を考える。(課題2-①) ・第7連にある「やすらかに 美しく 油断していた。」とは、どういうことか、「油断」という語句の意味や語感を踏まえて考える。(課題2-②) <b>4</b> 自分の意見を述べる。(課題3) ・作者は、この詩を通して、誰に、どのようなことを伝えようとしたのか、現代社会の状況と重ね合わせながら、自分の意見を述べる。 →P252「語彙ブック」(批評するときの言葉) <b>5</b> 学習を振り返る。 ・特に心に迫ってきた語句・表現を挙げる。 ・作者の思いや訴えを表すうえで、特に効果的だと感じた表現を挙げる。 ・詩を読み深めるための新たな視点や気づきをくれた、友達の見聞きを書き留める。	<b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ →語句の辞書的な意味や語感を踏まえて、文脈の中での意味や効果を考えている。 <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、詩の構成や表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ) →詩に用いられている比喩や象徴的な表現の効果について、自分の考えをまとめている。 ・「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →現代社会の状況と重ね合わせながら詩を読み深め、作者の思いや考えに対する自分の考えをまとめている。 <b>【主】</b> 詩の構成や表現のしかたを積極的に評価し、学習課題に沿って読み深めた詩について、感じたことや考えたことを伝え合おうとしている。
9月	<b>故郷</b> <b>5時間</b> ◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★小説を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	1-2	<b>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</b> <b>1</b> 作品を通読し、作品の設定を捉える。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 → <b>二次元コード</b> 「漢字の練習」 ・作品の舞台や時代背景を確認する。 ◇国語便覧や社会科資料集などで調べさせるとよい。 ・「私」と他の登場人物との関係を整理する。(課題1-①) ◇人物相関図などを使って整理させるとよい。 ・時や場所、人物に着目して、場面に分ける。(課題1-②) →P27 <b>カギ</b> 「展開のしかたを捉える」 <b>2</b> 場面や登場人物の設定に着目して読み深める。 ・ルントウとヤンおばさんについて、回想の場面と現在の場面とを比べ、描写の変化を抜き出す。(課題2-①) ・ルントウと再会した場面で「私」が感じた「悲しむべき厚い壁」とは何か、考える。(課題2-②) ・最後の場面で「私」が考える「新しい生活」や「希望」とはどのようなものか、「私」とルントウ、ホンルとシュイシヨンの関係などを踏まえて考える。(課題2-③) <b>3</b> 読み深めたことを基に、作品を批評する。(課題3) ・作品のもつ特性や価値について、「学びのカギ」を参考に、観点を決めて批評する。 ◇描かれた内容を自分の知識や経験、考えと比べたり、別の視点や立場から作品を捉え直してみ	<b>【知・技】</b> 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ →文学作品を読むことが、自分の人生や自分が生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。 <b>【思・判・表】</b> ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を批判的に読み、観点を明確にして、作品のもつ特性や価値を批評している。 ・「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →「私」が考える「希望」や望む社会の在り方などについてどう考えるか、根拠に基づいて自分の意見を述べている。 <b>【主】</b> 文章を批判的に読むことに積極的に取り組み、今までの学習を生かして小説を批評したり、自分の考えをまとめたらしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>たりするなど、批判的に読ませる。</p> <p>→P119 <b>カギ</b> 「文学作品を批評する」</p> <p>→P256 <b>覧</b> 「『学びのカギ』一覧」(文学)</p> <p>→ <b>二次元コード</b> 「学びの地図」</p> <p>→P119 <b>言の葉</b></p> <p>→P86 「読書を楽しむ」</p> <p>→P88 「『私の一冊』を探しにいこう」</p> <p>→P252 「語彙ブック」(批評するときの言葉)</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生き方や社会を考えるうえで、読書にはどんな意義があると感じたかを挙げる。</li> <li>・作品を読んで、納得や共感ができたこと、できなかったことについて、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・現代の日本とは異なる時代や状況を描いた小説を読む際、自分の考えをもつために必要だと思う観点を挙げる。</li> </ul>	
9月	<p><b>【推敲】 論理の展開を整える</b></p> <p><b>2時間</b></p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えることができる。(思・判・表B(1)エ)</p> <p>◎論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだすことができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 P120上段の文章を通読したうえで、語句・表現や叙述のしかたを見直し、文章を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示された三つの観点を参考に、それぞれの箇所を書き改める。</li> </ul> <p>→ <b>二次元コード</b> 「書くことのミニレッスン」</p> <p>→P264 <b>覧</b> 「グラフの見方/引用・出典」</p> <p>2 目的や読み手に合わせて、表現や論理の展開を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・示された四つの観点を参考に、課題に取り組む。</li> </ul> <p>◇「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」について、既習事項を振り返りながら課題に取り組みせるとよい。</p> <p>2 3 読み手からの助言を踏まえて、確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書き改めた文章を友達と読み合い、よい点や改善点を出し合う。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、自分で書いた文章の論理の展開を整えるときに生かしたいと思った点を挙げる。</li> </ul>	<p><b>【知・技】</b> 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→「事実と意見」「意見と根拠」「具体と抽象」など情報と情報との関係に着目しながら、課題に取り組んでいる。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。(B(1)エ)</li> <li>→目的や意図に応じた表現になっているかを確かめて、文章を推敲している。</li> <li>・「書くこと」において、論理の展開などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)</li> <li>→論理の展開について、読み手からの助言を踏まえて自分の文章のよい点や改善点を確認、必要に応じて整えている。</li> </ul> <p><b>【主】</b> 目的や意図に応じた表現になっているかを粘り強く確認して推敲し、読み手からの助言や、情報と情報との関係についての知識を生かして、書き改めようとしている。</p>
9月	<p><b>言葉3</b></p> <p><b>慣用句・ことわざ・故事成語</b></p> <p><b>1時間</b></p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え</p>	1	<p>1 導入の例のような、一まとまりで決まった意味をもつ言葉をできるだけたくさん書き出す。</p> <p>→P250 「語彙ブック」(慣用句・ことわざ・四字熟語・故事成語)</p> <p>◇国語便覧などで調べさせてもよい。</p> <p>2 教材文を読み、慣用句・ことわざ・故事成語の特徴や性質について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慣用句を使って短文を作る。</li> <li>・ことわざや故事成語の意味を調べる。</li> <li>・P123 「生活に生かす」に挙げられている慣用句やことわざの誤用の例を、生活を振り返って探してみる。</li> </ul> <p>◇インターネットなどを使って、誤用例を検索させるのもよい。</p>	<p><b>【知・技】</b> 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→慣用句を使って短文を作ったり、ことわざや故事成語の意味や使い方を調べたりしている。</p> <p><b>【主】</b> 慣用句やことわざ、故事成語の意味や使い方について積極的に調べて理解し、今までの学習を生かして短文を作ろうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)		3 学習を振り返る。 → <b>二次元コード</b> 「漢字の練習」	
10月	<b>聞き上手になろう</b> <b>質問で相手の思いに迫る</b> <b>1時間</b> ◎敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うことができる。(知・技(1)エ) ◎話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★提案や主張など自分の考えを話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア)	1	<b>「目標」や「学習の見通しをもとう」</b> で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 <b>1 対談の準備をする。</b> ・3～4人でグループを組み、話し手(1人)、聞き手(1人)、聴衆(1～2人)を決め、役割ごとに準備をする。 ◇話し手には、聞き手に話題を伝えたいうえで、特に話したいことを決めさせる。 ◇聞き手には、話題について調べ、質問を考えさせる。 → <b>二次元コード</b> 「対談をする」 <b>2 対談を行う。</b> ・1回5～7分程度で対談を行う。役割は順に交代する。 ◇聞き手には、以下のポイントを意識させる。 ・話題を選んだ意図や具体的なエピソードを聞き出して、相手の内面に迫る。 ・自分の感想や体験を交えることで、さらに話を引き出す。 ・聴衆も楽しめるように意識する。 →P36「言葉1 相手や場に応じた言葉遣い」 →P124 <b>カギ</b> 「質問で相手の思いに迫る」 →P260 <b>資</b> 「『学びのカギ』一覧」(話す・聞く) → <b>二次元コード</b> 「学びの地図」 ◇話し手には、以下のポイントを意識させる。 ・質問に答える形で話す。特に話したい内容について質問されたら、そのことを伝えてから話す。 ◇聴衆には、対談の様子を観察させる。授業の最後に講評させてもよい。 ◇「相手や場に応じた言葉遣いができていたか」「話し手の内面に迫る質問ができていたか」など、評価の観点を示したワークシートを配付しておくもよい。 <b>3 学習を振り返る。</b> ・話し手、聞き手、聴衆、それぞれの役割から、対談を通して気づいたことや考えたことを出し合う。	<b>【知・技】</b> 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使っている。(1)エ) →対談の話し手や聞き手として、適切な言葉遣いを選択している。 <b>【思・判・表】</b> 「話すこと・聞くこと」において、話の展開を予測しながら聞き、聞き取った内容や表現のしかたを評価して、自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)エ) →話の展開を予測しながら聞き、対談の中で、相手の思いに迫ることができた質問や話を豊かに展開させた応答は、どのようなものだったか捉えている。 <b>【主】</b> 話の展開を予測しながら積極的に聞き、今までの学習を生かして対談しようとしている。
10月	<b>漢字2 漢字の造語力</b> <b>1時間</b> ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1	<b>1 導入の文章を読み、新しい言葉が考え出された経緯を知る。</b> <b>2 教材文を読み、「翻訳語」と「新しい語」の側面から漢字の造語力について知る。</b> <b>3 練習問題に取り組み、理解の程度を確かめる。</b> ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。 → <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」 →P306 <b>資</b> 「三年生で学習した漢字」 →P317 <b>資</b> 「三年生で学習した音訓」 →P318 <b>資</b> 「常用漢字表」	<b>【知・技】</b> 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →漢字の造語力を意識しながら、漢字の意味を理解し、読んだり書いたりしている。 <b>【主】</b> 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
5 自らの考えを				
10月	<p>複数の意見を読んで、考えよう ——正解が一つに決まらない課題と向き合う</p> <p>3時間</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価することができる。(思・判・表C(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★論説の文章を比較して読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 3人の筆者の提言を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> <li>◇通読後は、二次元コード「基礎資料」「筆者インタビュー」を確認・視聴させてもよい。</li> </ul> <p>2 文章の要旨を捉える。(課題1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3人の筆者が、環境問題を解決するために、今、何が必要だと考えているか、それぞれの提言の要旨をまとめる。</li> <li>◇題名や文章の結論部に着目させ、筆者が読者に最も伝えたいことを捉えさせるとよい。</li> </ul> <p>2 3 文章を比較して評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観点を決めて文章を比較し、それぞれの特徴を表にまとめる。(課題2-①)</li> <li>・提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどを、自分の経験や読書などで得た知識と照合して吟味し、評価する。(課題2-②)</li> <li>→P135カギ「文章を批判的に読み、評価する」</li> <li>→P258資「『学びのカギ』一覧」(説明文)</li> <li>→二次元コード「学びの地図」</li> <li>→P54「論理の展開を意識して書こう」</li> <li>◇P134に示された観点別の表をワークシートにして配付し、文章の比較から明らかになった特徴をまとめさせてもよい。</li> <li>◇3人の筆者のものの見方・考え方について、自分の知識や経験、他の人の考えなどと比べながら、批判的に読ませる。</li> <li>◇三つの提言をどのように評価したか、根拠を明確にさせる。</li> </ul> <p>3 4 グループで討論し、提言に対する評価を基に、自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの提言をどう評価するか、グループで討論する。(課題2-③)</li> <li>・討論を踏まえ、自分の考えをまとめる。(課題3)</li> <li>◇教科書に示された書きだしを参考に、三つの提言に対する自分の考えをまとめさせる。</li> </ul> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を吟味するとき、読書を通して得た知識をどのように役立てたか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・文章を批判的に読み、評価するときに留意すべきことは何か、考える。</li> <li>・今回身につけた文章の読み方の中で、次に論説を読むときに役立ちそうだと思うものを書き留める。</li> </ul>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ)</p> <p>→一つの課題に対して書かれた複数の文章を読み比べることが、自分の生きている社会について深く考えるきっかけとなることに気づいている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→観点を決めて文章を比較したり、自分の知識や経験と照合したりしながら批判的に読み、筆者のものの見方や考え方について考えている。</li> <li>・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開、表現のしかたについて評価している。(C(1)ウ)</li> <li>→提言の内容、論理の展開、表現のしかたなどについて、自分の知識や経験と結び付けたり、討論したりして、評価している。</li> </ul> <p>【主】三つの文章を批判的に読むことに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えを文章にまとめようとしている。</p>
10月	<p>考えを効果的に伝えよう 多角的に分析して批評文を書く</p> <p>5時間</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやす</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>◇授業の導入として、「書くことのミニレッスン」に取り組みせるとよい。</p> <p>→二次元コード「書くことのミニレッスン」</p> <p>1 題材を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会で見聞きしたことや、新聞、テレビなどのメディアを通して知ったことの中から、関心のある事柄を選ぶ。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→「意見と根拠」「具体と抽象」など、情報と情報との関係に関する知識を生かして論理の展開を考えている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりす</li> </ul>



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>きる。(知・技(1)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>◎単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解することができる。(知・技1年(1)エ、2年(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>		<p>3 P141「文法への扉2」を読み、「ない」の文法上の違いを理解する。</p> <p>・「ない」という語が意味や用法によって、形容詞、形容詞の一部、助動詞に分類されることを知る。</p> <p>→二次元コード「文法ワーク」</p> <p>→P228「文法 一、二年生の復習」</p> <p>◇それぞれの見分け方を理解させる。</p> <p>4 P233「文法2 文法のまとめ」にある文法の問題に取り組む。</p> <p>・3年間の文法の学習を思い出し、文の組み立てや単語の種類と働きなどについて復習する。</p> <p>→二次元コード「練習問題」</p>	<p>【知・技】単語の類別について理解するとともに、単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について理解している。(1年(1)エ、2年(1)オ)</p> <p>→言葉の単位、文の組み立て、単語の分類、自立語、用言の活用、付属語など、3年間で学習した文法の内容を理解している。</p> <p>【主】単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応について進んで理解し、今までの学習を生かして課題に取り組もうとしている。</p>
10月	<p>聴きひたる 初恋 1時間</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 朗読音声を聴き、言葉の響きやリズムを味わう。</p> <p>・近代に作られた文語定型詩を聴き、響きやリズムなどについて気づいたことを話し合う。</p> <p>→二次元コード「朗読音声」</p> <p>2 語句の意味や表現に込められた作者の思いを読み取り、感じたことを発表し合う。</p> <p>・詩に描かれた情景と詩の中の人物の心情を想像する。</p> <p>◇「初恋」という詩から読み取った思いと自分の経験とを結び付けて想像させる。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→語句や表現に着目したり、言葉の響きやリズムを味わったりしながら詩に描かれた情景や心情を想像している。</p> <p>【主】進んで語感を磨き、今までの学習を生かして作品を読んだり自分の考えを述べたりしようとしている。</p>
10月	<p>季節のしおり 秋</p> <p>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p>	-	<p>・秋の気象にまつわる言葉や、秋の情景を詠んだ和歌や俳句を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</p> <p>◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇秋をテーマにした他の詩歌を探し、交流させることもできる。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→作品中の「秋」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
6 いにしえの心を受け継ぐ				
11月	<p>和歌の世界 音読を楽しむ 古今和歌集 仮名序 1時間</p> <p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化</p>	1	<p>1 P146「和歌の世界」を読む。</p> <p>・「万葉集」「古今和歌集」「新古今和歌集」について興味をもち、三大和歌集についての特徴や歴史的背景などをおおまかに捉える。</p> <p>◇P150「君待つと」と併せて学習させてもよい。</p> <p>◇P286〔資〕「古典・近代文学の名作」やP292〔資〕「日本文学の流れ」で文学史を知り、歴史的背景に興味をもたせるとよい。</p> <p>2 P148「古今和歌集 仮名序」冒頭部分を朗読し、作者の思いを想像する。</p> <p>・歴史的仮名遣いに気をつけて朗読し、古文の言</p>	<p>【知・技】歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</p> <p>→「和歌の世界」と「古今和歌集 仮名序」を読み、三つの歌集の特徴や歴史的背景、和歌に対する古人の思いを捉えている。</p> <p>【主】進んで古典の世界に親しみ、今までの学習を生かして朗読しようとしている。</p>



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	ともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★古典の文章を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)	3	→P158 『『おくのほそ道』俳句地図』 3 心に響く俳句について発表する。(課題3) ・自分の心に響く俳句を1句選び、その理由や、どのように心に響いたのかについて発表し合う。 ◇P158 『『おくのほそ道』俳句地図』にある俳句も参考にさせるとよい。 4 学習を振り返る。 ・歴史的背景に注意して読むことで、その場面への理解や印象にどのような変化があったか、自分の言葉でまとめる。 ・作者のものの見方や感じ方について考えたことは何か、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表の中で、印象に残ったものを挙げる。	ている。(C(1)イ) →現代の価値観と比較したり、作者が感動した歴史的背景を確かめたりして、作者のものの見方や感じ方について考えている。 【主】作者のものの見方や感じ方について進んで自分の意見を持ち、今までの学習を生かして発表しようとしている。
11月	つながる古典 古典名作選 【書く】古典の言葉を引用し、メッセージを贈ろう 1時間 ◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア) ◎長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。(知・技(3)イ) ◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)	1	1 P166 「つながる古典」を通読する。 ・3年間で出会った古典作品のつながりを感じながら、学習を振り返る。 →P286【資】「古典・近代文学の名作」 ◇年表を基に、作品のジャンルや成立時期、作品どうしのつながりを確認させる。 2 P168 「古典名作選」を朗読する。 ・気に入ったものがあればノートに書き出す。 ◇他の詩歌や文学作品なども参考にさせるとよい。 →P38 「学びて時に之を習ふ」 →P42・98・144・185 「季節のしおり」 →P286【資】「古典・近代文学の名作」 3 古典の言葉を引用し、メッセージを贈る。 ・P170の手順を読み、これまで学習した古典の文章の中から、気に入った言葉や心に響いた言葉、誰かに贈ってみたい言葉を選ぶ。 ◇P42・98・144・185 「季節のしおり」、P168 「古典名作選」などを参考にさせるとよい。 ・どのような状況の、誰に、どのような目的でメッセージを贈るのかを考える。 ・自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、選んだ古典の言葉の意味と、伝えたい思いとの関連を意識してまとめる。 4 文章を友達と読み合い、学習を振り返る。 ・相手の状況や自分の思いにふさわしい言葉や文章の種類を選択したか、自分の言葉でまとめる。 ・論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】 ・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア) →古典の名作の歴史的背景や後世への影響を知り、その一節を読んでいる。 ・長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使っている。(3)イ) →古典の言葉を引用して、メッセージを書いている。 【思・判・表】「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ) →自分の思いを表現するのにふさわしい文章の種類を選び、相手の状況を踏まえて構成を工夫してメッセージを書いている。 【主】長く親しまれている言葉や古典の一節を進んで引用するなどし、今までの学習を生かしてメッセージを書こうとしている。
7 価値を生み出す				
11月	それでも、言葉を 4時間 ◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア) ◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ) ◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・	1	【目標】や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 本文を通読し、言葉に対する筆者の考えを捉える。 ・注意する語句を調べる。 ・納得したこと・共感したこと、わからないこと・疑問に感じたことなどの観点に沿って、本文に線や記号を書き込みながら読む。(課題1-①) →P135【カギ】「文章を批判的に読み、評価する」 ◇P177 「筆者が担当するコラムから」を導入として授業の初めに読ませてもよい。 ◇本文を通読し終えたら、書き込んだ箇所を共有させるとよい。 ・「もっとよく理解したい。」さらに掘り下げてみ	【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア) →抽象的な概念を表す語句について、言葉の意味を辞書などで確かめたり、具体的な事例を挙げたりしながら理解している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。(C(1)イ) →文章を多角的に検討したり、例証や反証を試みたりして、筆者の考えに



月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
12月	<p>【話し合い（進行）】</p> <p>話し合いを効果的に進めよう</p> <p>1時間</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 進行役の最後の発言に続く形で、参加者から出た意見を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 黒板アートについての話し合いの様子を視聴し、課題に取り組む。</li> </ul> <p>→二次元コード「話し合いの様子」</p> <p>◇話し合いの経緯や目的、基準となる条件を捉えさせる。</p> <p>◇これまでの話し合いで既に合意を得られた内容や、参加者の意見を整理させる。</p> <p>2 進行役の発言の効果を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P183に挙げられた進行役の発言は、目的に即した話し合いをするうえで、どのような効果があったか、考える。</li> </ul> <p>◇多様な考えをもった人が参加する話し合いにおいて、互いの発言を生かしながら合意形成を図るために、進行役がどのように働きかけているか考えさせる。</p> <p>3 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 話し合いを効果的に進めるための工夫を確かめる。</li> </ul>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→抽象化の技能を生かし、複数の発言の共通点を抽出し、結び付けてまとめている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ)</p> <p>→合意形成に向けた話し合いを効果的に進行するための工夫について考えている。</p> <p>【主】積極的に進行の工夫とその効果を分析し、今までの学習を生かして話し合いの効果的な進め方について考えようとしている。</p>
12月	<p>季節のしおり 冬</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</li> <li>・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冬の気象にまつわる言葉や、冬の情景を詠んだ俳句や詩、名文を味わい、伝統的な言語文化に親しむ。</li> </ul> <p>◇P62「俳句の可能性」、P66「俳句の創作教室」、P68「俳句を味わう」、P150「君待つと」などの資料として用いてもよい。</p> <p>◇冬をテーマにした他の詩歌を探し、交流することもできる。</p>	<p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→作品中の「冬」を感じさせる言葉に着目し、情景を想像している。</p> <p>【主】伝統的な言語文化に関するこれまでの学習を生かして、積極的に語感を磨き、言語文化を大切にしようとしている。</p>
12月	<p>合意形成に向けて話し合おう</p> <p>課題解決のために会議を開く</p> <p>4時間</p> <p>◎具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。(知・技(2)ア)</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 議題を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域社会や学校生活の中から課題を見つけ、クラスで一つ議題を決める。</li> </ul> <p>→P262「資」「発想を広げる」</p> <p>→二次元コード「表現テーマ例集」</p> <p>2 2 グループで提案を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プレーンストーミングでアイデアを出す。</li> <li>・ グループごとに提案を一つに絞り込む。</li> </ul> <p>→P267「資」「話し合いの方法」</p> <p>◇プレーンストーミングでは、自由にアイデアを出させる。</p> <p>◇出たアイデアについて、根拠や意義を考え、説得力のある提案に絞らせる。</p> <p>◇タブレット端末などを使用し、グループの考えをスライドにまとめ、発表させるのもよい。</p> <p>3-4 3 全体会議を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 司会と書記を決め、クラスで話し合う。</li> </ul> <p>①グループごとに案を発表する。</p> <p>②提案を分類・整理し、観点を決めて検討する。</p> <p>③互いの意見を生かし、合意形成を図る。</p>	<p>【知・技】具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。(2)ア)</p> <p>→提案の根拠に着目して妥当性を吟味したり、複数の発言の共通点を基に抽象化してまとめたりしている。</p> <p>【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ)</p> <p>→合意形成に向けて納得できる結論を出すために、提案の意義や実現性を検討したり、互いの発言を生かしたりして話し合っている。</p> <p>【主】合意形成に向けて粘り強く考えを広げたり深めたりし、学習の見通しをもって話し合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			<p>→P183「[話し合い(進行)]話し合いを効果的に進めよう」</p> <p>→二次元コード「会議を聞く」</p> <p>→P187カギ「合意を形成する」</p> <p>→P188言の葉</p> <p>→P260資「『学びのカギ』一覧(話す・聞く)」</p> <p>→P267資「話し合いの方法」</p> <p>→P337資「ICT活用のヒント」</p> <p>→二次元コード「学びの地図」</p> <p>◇提案が目的に合っているか、実現可能ななどの観点から分析させる。</p> <p>◇タブレット端末などを使用し、座標軸などで提案を可視化しながら整理させてもよい。</p> <p>◇話し合いで出た提案を思考ツールで評価し、クラスで共有させてもよい。</p> <p>4 合意形成のポイントを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループやクラスでの話し合いを振り返り、合意形成のために必要なことや改善点を伝え合う。</li> <li>・どのような共通点を基に、複数の発言を抽象化したか、自分の言葉でまとめる。</li> <li>・互いの意見を生かして合意を形成する際に、どのような発言が効果的だったか、確かめる。</li> <li>・合意形成するために、自分が今後大切にしたいと思ったことを挙げる。</li> </ul> <p>◇P186「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。</p>	
いつも本はそばに				
12月	<p>本は世界への扉 天、共に在り 極夜行 読書案内 本の世界を広げよう 1時間</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★ノンフィクションを読み、理解したことや考えたことについて討論したり、文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	1	<p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 教科書本文を読み、筆者の生き方について自分の考えをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の中で共感したことや疑問に感じたことなどを話し合う。</li> </ul> <p>◇写真や本の一節、年表などを参考に、筆者に興味をもたせたり、世界で活動する人々について考えを広げさせたりする。</p> <p>→二次元コード「漢字の練習」</p> <p>2 P198「本の世界を広げよう」を読み、読んだ本や、興味をもった本について語り合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書が自分の生き方や社会との関わりをどのように支えてきたか考える。</li> </ul> <p>◇これから読んでみたいジャンルや作家を挙げさせるとよい。</p> <p>→P86「読書を楽しむ」</p> <p>→P88「『私の一冊』を探しにいこう」</p> <p>→P94「本の世界を広げよう」</p> <p>→P268資「二つの悲しみ」</p> <p>→P272資「高瀬舟」</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ</p> <p>→ノンフィクションを読み、読書によって、さまざまな状況に生きる人々やそこで活動する人々について知ったり、読書が自分の生き方を支えてくれることに気づいたりしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→読書を通して、考えたことや気づいたことを読書ノートに書いたり、語り合ったりしている。</p> <p>【主】進んで読書の意義と効用について理解し、今までの学習や経験を生かして、読んだ本や興味をもった本について語り合おうとしている。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
<b>8 未来へ向かって</b>				
1月	<p><b>温かいスープ</b> (2時間)</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	<p>1-2</p> <p>◇「温かいスープ」「アラスカとの出会い」「律儀な桜」「わたしを束ねないで」は、4教材合わせて6時間配当となっている。学年やクラスの状況に応じて、軽重をつけたり一体的に扱ったりするなど、柔軟に扱うとよい。</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 時代背景や筆者の置かれた状況を捉えながら全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当時の状況がわかる語句や文に線を引き、筆者の思いを想像する。</li> </ul> <p>◇脚注を参考に当時の世界状況を想像させ、感想を共有させる。</p> <p>2 筆者の考える「国際性」とは何かを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「月末のオムレツの夜」のエピソードを読み、筆者とレストランの母子それぞれの思いを読み取る。</li> </ul> <p>◇「温かいスープ」という題名に込めた筆者の思いを想像させる。</p> <p>3 国際性について自分の考えをもち、伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の考える「国際性」の基本とは何かを捉え、それについて自分の考えをもち、伝え合う。</li> </ul> <p>◇国際性の基本とは何か、文章中の語句を引用して自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ</p> <p>→文章に表現された人と人との関係を通して、国際性とは何かを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→自分の考え方や作品に表現された考え方を比較して、「国際性」とは何かについて、自分の考えをまとめている。</p> <p>【主】人間、社会などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。</p>	
	<p><b>アラスカとの出会い</b> (2時間)</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、理解したことや考えたことについて討論したり文章にまとめたりする。(思・判・表C(2)ア)</p>	<p>1-2</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・注意する語句・新出漢字を調べる。</li> </ul> <p>→<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">二次元コード</span>「漢字の練習」</p> <p>◇脚注を参考に筆者が経験したことや考えたことについて理解させる。</p> <p>2 筆者の生き方や考え方を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一枚の写真との出会いが筆者の人生においてどのような意味をもっていたのか、読み取る。</li> <li>・電車から家族の団欒を見たときの経験から、筆者が何を伝えようとしているのか、読み取る。</li> <li>・本文の語句を根拠に筆者のものの見方・考え方を読み取る。</li> </ul> <p>◇最後の段落に注目させ、筆者がこの文章を通して読者に伝えたかったことを考えさせる。</p> <p>3 筆者の生き方や考え方について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の生き方や考え方について、自分の考えをもち、話し合う。</li> </ul> <p>→P190「天、共に在り」</p> <p>◇最終段落の筆者の考えに対する自分の考えをまとめさせる。</p>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ</p> <p>→筆者の人生において、本との出会いがどのような意味をもっていたのかを読み取ったり、読書が自分の生き方や社会について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→文章から読み取った筆者のものの見方・考え方や、友達との交流を受けて、自分の生き方について考えをまとめている。</p> <p>【主】人間、自然などについて進んで自分の意見をもち、今までの学習や経験を生かして批評したり考えを伝え合ったりしようとしている。</p>	
	<p><b>律儀な桜</b> (1時間)</p> <p>◎自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解することができる。(知・技(3)オ)</p> <p>◎文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、</p>	<p>1</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 全文を通読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時系列に注意しながら、筆者が経験したこと、考えたことなどについて理解する。</li> </ul> <p>2 人と自然、時とともに変わるもの、変わらないものに思いをはせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者のものの見方・考え方について、自分の考</li> </ul>	<p>【知・技】自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解している。(3)オ</p> <p>→桜を巡る筆者の経験や考えを読み取ったり、読書が人と自然について考えるきっかけとなることに気づいたりしている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章を</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★随筆を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p><b>わたしを束ねないで</b> (1時間)</p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p>	1	<p>えをもつ。</p> <p>◇最終段落や「律儀な桜」という題名に着目させ、筆者がどのようなことを考え、読者に何を伝えようとしているかを考えさせる。</p> <p>◇自分の知識や経験と比べながら、考えたことを文章にまとめさせる。</p> <p>リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を調べる。</li> <li>→二次元コード「漢字の練習」</li> <li>・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。</li> </ul> <p>◇繰り返し使われている言葉や構成、表現技法などについて、気づいたことを話し合わせる。</p> <p>2 作者の思いを読み取り、自分の可能性について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・詩に込めた作者の思いを想像し、現代に生きる自分たちの可能性について話し合う。</li> </ul> <p>◇詩の歴史的背景を確認させるとよい。</p> <p>→P292 窓「日本文学の流れ」</p>	<p>読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→自分の知識や経験と結び付けながら文章を読み、人と自然に対する自分の考えをもっている。</p> <p>【主】人間、自然などについて進んで自分の意見を持ち、今までの学習や経験を生かして文章にまとめようとしている。</p> <p>【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</p> <p>→選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ)</p> <p>→詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、社会と人間、自分の可能性について考えている。</p> <p>【主】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の価値や自分の可能性について考えをまとめようとしている。</p>
1月	<p><b>三年間の歩みを振り返ろう</b> <b>冊子にまとめて、発表会をする</b> <b>5時間(話聞①書④)</b></p> <p>◎話や文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。(知・技(1)ウ)</p> <p>◎場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ)</p> <p>◎文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★提案や主張など自分の考えを</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 冊子のテーマを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・印象に残っている学習を思い出し、自分にとっての三年間の学びを総括するテーマを考える。</li> </ul> <p>◇教科書や学習記録を読み返したり、友達と話したりして、三年間の学習を振り返らせる。</p> <p>◇卒業文集や自分史をまとめる学習などに発展させてもよい。</p> <p>2 冊子の内容と構成を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを基に収録する記事を決め、それが効果的に伝わる文章の種類を選ぶ。</li> <li>・冊子全体と紙面の構成を考える。</li> </ul> <p>◇必要に応じて、見出しやキャッチコピー、レイアウトなどの例を示すとよい。</p> <p>3-4 3 冊子を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三年間の学びを冊子にまとめる。</li> </ul> <p>5 4 グループで発表会を開く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冊子の内容を紹介し、それと関連させて「これまで」と「これから」の学びについて発表する(各3分)。</li> </ul> <p>→P32「説得力のある構成を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質疑応答をし、考えを深める(各2分)。</li> </ul>	<p>【知・技】話や文章の種類とその特徴について理解を深めている。(1)ウ)</p> <p>→自分で設定したテーマと内容、目的に合う文章の種類を検討している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、場の状況に応じて言葉を選ぶなど、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。(A(1)ウ)</li> <li>→自分が伝えたいことが効果的に伝わるように、場に応じて工夫しながら話している。</li> <li>・「書くこと」において、文章の種類を選択し、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</li> <li>→記事の内容を効果的に伝えるために、紙面と文章の構成を工夫している。</li> </ul> <p>【主】粘り強く言葉を選んだり構成を工夫したりし、今までの学習を生かして、文章にまとめたり、友達の発表を聞いて質問したり評価したりしようとして</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	話したり、それらを聞いて質問したり評価などを述べたりする。(思・判・表A(2)ア) ★情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く。(思・判・表B(2)イ)		→P221 <b>カギ</b> 「これからの学びを展望する」 →P223 <b>言の葉</b> →P260 <b>資</b> 『『学びのカギ』一覧』(話す・聞く、書く) → <b>二次元コード</b> 「学びの地図」 5 学習を振り返る。 ・文章の種類とその特徴に関する知識をどのように生かしたか、自分の言葉でまとめる。 ・記事の内容を効果的に伝えるために、どのように構成を工夫したか、自分の言葉でまとめる。 ・場の状況に応じて話すために、どのようなことに気をつけたか、自分の言葉でまとめる。 ・友達の発表を聞いて、気づいたことや、さらに考えが深まったことを挙げる。 ◇P220 「生かす」を読み、学んだことを今後どのように生かしていきたいかを考えさせるとよい。	いる。
2月	初日 漢字に親しもう5 2時間 ◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ) ◎詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもつことができる。(思・判・表C(1)エ) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等) ★詩歌を読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)  ◎第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れることができる。(知・技(1)ア) ◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)	1-2	リード文や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 朗読を通して、詩のもつイメージを捉える。 ・これまでの詩の読解を振り返る。 ・気になった言葉や表現上の特徴などを抜き出し、気づいたことを述べ合う。 ◇抽象的な表現や構成、表現技法などについて気づいたことを話し合わせる。 2 詩の中の言葉や表現から、描かれた情景や心情を捉え、その内容について話し合う。 ・詩に描かれた情景や作者の思いを想像し、その内容について話し合う。 ◇詩の中の言葉を根拠として挙げながら、詩に描かれた情景や作者の思いを想像させる。  3 P226 「漢字に親しもう5」の練習問題に取り組む。 ・言葉の意味を辞書で確認しながら漢字を読んだり書いたりする。 → <b>二次元コード</b> 「漢字一覧表」 →P240 「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P306 <b>資</b> 「三年生で学習した漢字」 →P317 <b>資</b> 「三年生で学習した音訓」 →P318 <b>資</b> 「常用漢字表」 ◇漢字の音訓、部首、熟語の構成などの既習事項を思い出させる。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べさせるとよい。	【知・技】理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ) →選ばれた言葉の語感を基に、作者が詩に託したイメージを捉えている。 【思・判・表】「読むこと」において、詩を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見をもっている。(C(1)エ) →詩に描かれた情景や作者の思いを想像しながら、人間、社会、自然などについて考えている。 【主】詩を読んで、進んで考えを広げたり深めたりし、今までの学習を生かして、作品の内容について話し合おうとしている。  【知・技】第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読んでいる。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れている。(1)ア) →音訓や部首、熟語の構成などに気をつけて、これまでに学習した漢字を読んだり書いたりしている。 【主】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
学びを深める				
3月	<p><b>国語の力試し</b></p> <p><b>3時間</b></p> <p>◎理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)イ)</p> <p>◎歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。(知・技(3)ア)</p> <p>◎文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えることができる。(思・判・表C(1)ア)</p> <p>◎文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えることができる。(思・判・表C(1)イ)</p> <p>◎進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすることができる。(思・判・表A(1)オ)</p> <p>◎多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫することができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>◎表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ)</p> <p>◎言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>★詩歌や小説などを読み、批評したり、考えたことなどを伝え合ったりする。(思・判・表C(2)イ)</p> <p>★互いの考えを生かしながら議論や討論をする。(思・判・表A(2)イ)</p> <p>★関心のある事柄について批評するなど、自分の考えを書く。(思・判・表B(2)ア)</p>	<p>1</p> <p>1 P243-246の問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・40分を目安に問題を解く。</li> <li>・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。</li> </ul> <p>◇タブレットやパソコンで問題に取り組んだり、解答を確認したりさせるとよい。</p> <p>→二次元コード「国語の力試し」</p> <p>◇「話す力・聞く力」の問題を解くときには、教科書の文章を読ませてもよいが、二次元コードから音声を開かせ、メモを取らせたほうが望ましい。</p> <p>→二次元コード「国語の力試し(問題)」</p> <p>2</p> <p>2 P242の二次元コードから、発展問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・40分を目安に問題を解く。</li> <li>・解き終わったら、解答と採点基準を確認し、自己採点をする。</li> </ul> <p>→二次元コード「国語の力試し」</p> <p>3</p> <p>3 振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・間違ったところを改めて見直したり、それぞれの設問に関連する教材に立ち戻って、学習の要点を確認したりする。</li> </ul> <p>→P119「カギ」「文学作品を批評する」</p> <p>→P135「カギ」「文章を批判的に読み、評価する」</p> <p>→P187「カギ」「合意を形成する」</p> <p>→P55「カギ」「論理の展開を考える」</p> <p>→P137「カギ」「論理の展開や表現を工夫する」</p> <p>→P122「言葉3 慣用句・ことわざ・故事成語」</p> <p>→P146「和歌の世界」</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)イ)</li> <li>→ことわざや故事成語、四字熟語の意味や使い方を正しく理解している。</li> <li>・歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。(3)ア)</li> <li>→歴史的仮名遣いに注意して和歌を読み、解釈しながら、親しんでいる。</li> </ul> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開のしかたなどを捉えている。(C(1)ア)</li> <li>→回想場面を織り込んだ展開のしかたとその効果について捉えている。</li> <li>・「読むこと」において、文章を批判的に読みながら、文章に表れているものの方や考え方について考えている。(C(1)イ)</li> <li>→文章に表れている筆者の言葉に対する見方や考え方について、自分の考えをもっている。</li> <li>・「話すこと・聞くこと」において、進行のしかたを工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い、合意形成に向けて考えを広げたり深めたりしている。(A(1)オ)</li> <li>→話し合いの内容を分析し、それぞれの発言がどのような役割を果たしているか、捉えている。</li> <li>・「書くこと」において、多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて、文章の構成を工夫している。(B(1)イ)</li> <li>→意見と根拠、それらを結び付ける無理のない理由づけを示して、考えをまとめている。</li> <li>・「書くこと」において、表現のしかたを考えたり資料を適切に引用したりするなど、自分の考えがわかりやすく伝わる文章になるように工夫している。(B(1)ウ)</li> <li>→ポスター作りの目的を意識しながら、資料の特徴をまとめている。</li> </ul> <p>【主】粘り強く文章や資料を読み取り、今までの学習を生かしてそれぞれの学習課題に取り組もうとしている。</p>	